

322
455

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18
50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

始



6.4.6

實業讀本

武藤山治



實業讀本

武藤山治著

大正
15. 1. 16
内交

正誤表

| | 頁 | 行數 | 誤 | 正 |
|----|----|----|------------------------|--------|
| 目次 | 4 | 5 | 階級の争ひ | 階級の争か |
| " | 7 | 8 | 安逸も亦苦痛 | 休息も亦苦痛 |
| 本文 | 15 | 3 | かつて | かつて |
| " | 18 | 3 | 武士道の國 | 武士道の國 |
| " | 19 | 7 | 應募者 | 應募者 |
| " | " | 9 | 廊下 | 廊下 |
| " | 31 | 3 | 種々適切な | 誠に適切な |
| " | 32 | 10 | 大部分 | 大部分 |
| " | 35 | 5 | 青年團 | 青年團 |
| " | 36 | 8 | 此の | 此の |
| " | 43 | 3 | 與るもの | 與るもの |
| " | " | 8 | 大戦争 | 大戦争 |
| " | 45 | 1 | 現首相 | 現首相 |
| " | 46 | 7 | 官公吏 | 官公吏 |
| " | 47 | 3 | 迴避 | 回避 |
| " | 51 | 4 | 十ヶ年も | 十ヶ年を |
| " | 52 | 6 | 政府を | 政治を |
| " | 53 | 10 | 言ふ事に | 言ふ事を |
| " | 71 | 3 | 大臣と | 大臣に |
| " | 89 | 9 | 獨逸人 | 獨逸國 |
| " | 93 | 4 | マクドナルド } アスキス } ノ次へ | 氏ヲ加フ |
| " | " | 6 | 戒飾 | 戒筋 |
| " | 95 | 2 | 追撃は | 追撃を |
| " | " | 9 | ルーテルノ次ニ | 氏ヲ加フ |

(裏へつづく)



實業讀本

武藤山治著

大正 15. 1. 16 内交

実 業 語 彙

| | | | | |
|-----|-----|--------------|-------------|-------------|
| 本文 | 99 | 6 | カーヤ 輝き | カーヤ 輝き |
| " | 105 | 11 | ころ 又は之を | これ 又は之を |
| " | 107 | 4 | すで 已に | すで 已に |
| " | 120 | 9 | わた 綿の | わた 綿の |
| " | 122 | 6 | 染料業 | 染料工業 |
| " | 153 | 8 | 事を望む。 | 事を望む。』 |
| " | " | 10 | カーネギーノ次ニ | 氏ヲ加フ |
| " | 154 | 6 | てい 大抵 | てい 大抵 |
| " | 156 | 7 | ぎ ぎ 公の義務 | ぎ ぎ 公の義務 |
| " | 166 | 1 | おい 自衛 | おい 自衛 |
| " | 184 | 2 | さん 稱賛 | さん 稱讚 |
| " | 190 | 4 | スマイルスノ次ニ | 氏ヲ加フ |
| " | 191 | 3 | コブデンノ次ニ | 氏ヲ加フ |
| " | " | 5 | ヂスレリーノ次ニ | 氏ヲ加フ |
| " | 193 | 2 | みづけ 水氣 | みいき 水氣 |
| " | 200 | 1,2,9, 11 | カーネギーノ次ニ | 氏ヲ加フ |
| " | 203 | 4 | キングスレーノ次ニ | 氏ヲ加フ |
| " | 204 | 5 | ワシメーカーノ次ニ | 氏ヲ加フ |
| " | 214 | 7 | 何故であらう | 何故であらうか |
| " | " | 5 | 愛の手より | 愛の手よりも |
| " | 215 | 5 | 所以なるが、 | 所以なるか。 |
| 以 上 | | | | |



—— 圖 界 世 ——

序

吾々は世界の地圖を眺むるとき、如何に此小き領土の中に、大勢住つてゐるかを痛切に感ぜざるを得ぬ。

此小き島の中に住ふところの吾々が、世界強大國の國民と伍して行かうと云ふには、吾々は恰も一家族の如く、相勵み、相扶け、大いに働かなければならぬ。

維新以來、吾國は長足の進歩をしたと言へる。しかしこれは外形に於てであつた。それが爲め拂つた内面的犠牲は甚だ大なるものがある。吾々は古來武士の間に存在した武士道を失つてゐる。而して失つた武士道に代る何物をも受け入れずに、舊地に物質文明に向つて狂奔した。その結果は、今や社會何れの方面に於ても欠陥

を現はして居る。故に今日吾々の切實なる要求は外形に非ずして内面である。物質に非ずして精神である。かく觀ずればとて私は吾が國民の心に建國以來の大精神が宿つて居ることを無視して居るのではない。然し此大精神は吾々一般國民の日常生活に準繩たらしむるには餘りに尺度が大に過ぎる。かるが故に此大精神を一般國民に能く理解せしむる爲めに私は茲に實業精神なるものを説いて、佛教の所謂小乗たらしめたいのである。

幸ひにこれが吾が國民日常の行を律する道德心の規範となつて、國民精神振興の一端に資するを得ば、望外の仕合せである

大正十四年十二月

武藤山治

實業讀本目次

一 實業と言ふ言葉の意味

ビジネス……實業とは仕事のこと……ゲリーの解釋……殆んど人生其者を指す……武士道と實業精神……「自分は實業家である！」……吾が國民の誤解……實業と虚業

二 實業の精神

實業と道德……商人と屏風は……眞の成功の礎……富圖大盡……因果はめぐる小車……致富の手段を擇め……西洋の諺に……吾が實業道德の今昔……拜金思想……百弊の基

三 自尊心

自尊心の意義……一人位の力では……人間一個の力は偉大……自尊心と國家……英國一會社の自信……外務省に振ち込む……然るに吾が商業會議所は……宗教家大

會の決議……一實業家の抗議……英國實業家の意氣を見よ……自尊心と義務觀念……
 ……弱き道德心……三十六計逃ぐるに如かず……西洋人の義務觀念……英國民の義
 勇奉公……イートンの健兒……個人主義と奉公心……癩病島の一挿話……惠金よ
 りも貸金……誰れにも自尊心がある……或るストライキと自尊心……名人氣質……
 ……心の持ちやう次第……大量生産と社會奉仕……團體的成功を誇れ……遊戯と勞
 働……自尊心は他尊心……鮮人學生の述懐

四 自制心

醉姿狂態……團體となると……西洋のストライキ……日本のストライキ……電車
 のスパーク……笑止千萬……恐るべき結果……一生貯金せぬ人……ロバート氏の
 訓戒……貯金をするには……資本は自制心の結晶……兎當違ひの非難……不景氣
 の原因……債權國になれたが……政治家の自制心……政治と經濟の關係……猶ほ
 遅からず……耐へ難きに耐へよ

五 自治精神

日本人の奇妙な習慣……長い封建政治の餘風……國家に對する依頼心……關東大震
 災の時……政府に縋がらぬ……桑港大震災の時……憲政の基礎……砂上に樓閣を

築くもの……ゲーテの喝破……依らしむべし知らしむべからず……青年團と自治的
 訓練……公費で青年團へ補助とは……タイムスの一寄書……愛國か愛錢か……ボ
 ールドウイン氏の篤行……一大財政難……市政不振の原因……上海の市政……市
 參事會員は一流の實業家……ジョセフ・ロウントリー氏……自治の何たるを解せず……
 ……義務と利害の両面より……倫敦・東京・大阪の財政……國費の膨脹と整理……國
 民が自覺さへすれば……私は悲觀せぬ……株主總會の今昔……會社の社長と役人の
 古手……章魚配當の愚を悟れ

六 博愛の精神

眞理は愛なり……燒野の雉子夜の鶴……愛を博めよ……平和の礎……獨逸の敗因
 ……島國魂性……向ふ三軒兩隣り……世の中を圓く治めるには……治安維持の根
 本義……眞の金儲けの途……負ひつ負はれつ……社會の恩……博愛心に乏しき國
 民……リッデル嬢と回春病院……日本の癩病患者を憐れむで……顔を合はすも恥か
 しい……解らない……女の踏切番と藝者……南北戦争とマンチェスター……正義
 人道の爲めに……愛は萬事に勝つ

七 卑屈心

……

八 品 性

「長いものには巻かれよ」……町奴の意氣……金持ちの前でベコ／＼……大臣御通過
 ……首相でも普通の乗客……銀行家と兩替屋……幕府時代の金融……お定り相場
 ……十人兩替の見識……今の銀行家顔色ありや……改むべき時機……不都合なる
 中央銀行制度……ラモント氏の演説……普選と新政黨……自尊心の發露……政策
 の争か階級の争ひ……英國の政黨の分野……精神的負傷者……「心に高下あり」……
 ……善玉・悪玉……ブライス子爵の熱辯……悪を行ふ衆人……何時も政府黨が勝つのは

品性の意義……固有の美風……各國人の品性試驗場……スマイルスの「品性論」……
 ……半可通の新しがり……職工も紳士……未開人の文明中毒……折角の味方を失ふ……
 ……富よりも品性……攘夷思想と愛國心……獨逸人の品性……品性の養成所……
 ……最初の微笑の輝く時……半分は垢……野次……聽衆は裁判官……衣川の美談……
 ……品性は人間の至寶……ルーテル曰く

九 理 想

理想と空想……空想を追ふ人……貧乏な小空想家のはなし……フランクリンの謬見
 ……良き目的と正しき手段……先きの百より今の五十……ユダヤ人……理想は高

尙な道德心……子孫の利益の爲めに……理想なき國民……發明の芽生へ……三十
 五年前に飛行機を設計……關東震災と今村博士の豫言……理想家マクドナルド氏……
 ……理想なき政治家……眞に偉大なる國家……精神上の富……興國と亡國……國民
 的信仰が土臺……事大思想の國民……大は益々大、小は益々小……憲政は有名無實
 ……政治と理想……實業と理想

一〇 研究の必要

東洋人の雷同性……禪問答と落着き……火事は自宅……舶來思想の丸呑みは危険……
 ……フキリツピンの馬……芝居小屋と會館……鐘紡の糸に苦情……染料問題……
 ……國の費用と物の値段……營業稅……地租……織物稅……酒造稅……各種の關稅
 ……月收百二十五圓の家計を立てるものが一ケ年に負擔する國費の總額……月收五十
 圓の人は……國費節減は共同の利益……金持をいぢめてみても……政治と經濟の因
 果關係……「疑」は進歩の基……花は何故紅か……學生と博士……博士の訓戒

一一 使ふ人使はれる人

使ふ者の苦勞……人を上手に使ふ人……店と工場……使はふとすれば失敗……小
 言や規則攻めでは……便所に糸屑……従業員優遇の設備……親しむこと……温情

主義の經營法……高率配當是非……英國でも……風と太陽の競技……『公平論』出
 不平人……不平の價値……注意函……下情上達係り……思ひやり……親身の
 世話……新島襄氏の自傳……可愛ければこそ……使はれる者の心掛け……影で
 の不平は禁物……中間で邪魔……鐘紡では……舉動を慎め……或鐵道會社が其の
 使用人に示した注意書き……カーネギーの金言……辛抱が肝心

二 責任觀念

一五

責任觀念と義務觀念……英國の誇り……公私二様の義務……自己の職分に忠實なれ
 ……或普選論者の告白……智識階級の責任……宗教改革の起るわけ……キリスト
 の痛罵……富豪の責任……金持ちの自慢話……社會の恩を忘れるな……金持ちの
 志恩と思想の悪化……社會奉仕即自己保全……ワナメーカー氏曰く……富豪の盲腸
 化を戒む……金持の自衛の爲めにも……政治革新學校……最も大なる奉仕……カ
 ヲドベリー氏を學べ……新歸朝者の談片……日本素通りの理由……米國六代目の大
 統領……號外と電信技師……社長と代議士……株主各位に謹告……『——お笑ひ
 被下べし』……ウエルリントンの部下……建國の大精神に鑑みて

三 協同の精神

一六

善事に協力する心……自他を正しくせよ……悪人跋扈善人閉息……協同精神の乏し
 し理由……紐育の砂糖不買同盟……英國のフッド・カウシル……倫敦市民の協力
 ……O.M.Sの使命……支那人よりも劣る……明治維新と薩長土肥聯盟……大正
 維新と政治更新聯盟……盲と聾と聾の協同

四 失敗

一七

人生は失敗の歴史……エジソンの失敗……天與の才能……スマイルスの失敗觀……
 ……七轉び八起きの覺悟……コブデンやヂスレーリでさへ……私の失敗録……此の失
 敗に鑑みて……安逸も亦苦痛……少く借りること……禍を轉じて福と爲せ……道
 義的勇氣……『失敗は人生の至寶なり』

五 金儲の秘訣

一八

貧乏は誰も嫌ひ……古今東西同一轍……カーネギーと貧乏詩人……取るに足らぬ富
 の力……大富豪の貧乏隠微……儲けたいのが人情……成功の秘訣……運・鈍根……
 ……『艱難汝を玉にす』……キングスレーの短篇より……金儲の第一階梯……百貨店
 王の生ひ立ち……必ず貯蓄すること……其日暮しとは……イー・エッチ・ゲリー
 氏……父君の訓戒……立身出世の基礎……給仕も株主……金儲けの定石……定

石だけでは——「機會」の神像……好機は再來せず……最後の秘訣……「金」に對する誤解……「金」も畢竟「物」の一種……賣る可きに買ひ、買ふべきに賣る……最近の實例……切り上げが肝心……一將功成り萬幸枯る……金を物と思ふこと……大抵の所で見切りを付けること……金儲と人生……最後の勝利……心の富……正しく儲けて正しく費せ……「金塊を負へる驢馬」

一六 人生の眞意義

自由を求めて——自ら自由を縛る……神が人間を創造する時……満足の心……終生煩悶……何を満足の標準とするか……永遠の闘争……奉仕と満足……先づ人心の改造から

實業讀本 目次 (畢)

一 實業と言ふ言葉の意味

ビジネス……實業とは仕事のこと……ゼリーの解釋……殆んど人生其者を指す……武士道と實業精神……『自分け實業家である』……吾が國民の誤解……
……實業と虚業

實業なる言葉は英語の Business と言ふ言葉の譯語である。原語は Busy (忙しい) とニ義 (ものまたはこと) とが結び合つて出來たので、西洋の辭書には work (仕事) と註釋せられてゐる。彼の米國自動車王ヘンリー・フォード氏も、「實業とは仕事のことである」と言つて居る。
然るに吾國に於ては、實業と言ひ、實業家と言へば、何か商工業、ま



實業とは仕事のことである

たは商工業に従事するものに限るやうに解せらるゝのみならず、商工業者の中でも、大組織の下に營業するものだけに限るやうに考へる人が尠くない。是は甚だしい間違ひである。

彼の有名なる英國の大政治家サーズベリ卿は「政治は實業なり」と言つて居るが、獨り政治に限らない、人世に於ける總ての仕事は皆實業である。米國鋼鐵會社々長イー・エツチ・ゲリー氏は、氏の講演中に、實業なる言葉の意味を左の如く説き明かして居る。

『凡そ、生活又は利益を目的とする總ての仕事は實業である。更に廣義に解すれば、人生に於ける如何なる仕事も實業であり、其の成功は一に實業の精神に因るものである。例へば政治家、僧侶、學校長、教授、醫者、辯護士、美術家、科學者、商人、金融業者、製造業者、職人、炭坑

ゲリーの解釋

殆んど人生其者を指す

武士道と實業精神

『自分は實業家である』

夫、職工など、大なり小なり實業的能力と精神の支配を受けてゐる。實に實業に對する各人の成功は、吾々の生存の上に根本的必要事である。』かくの如く、西洋では、實業と言ふと、殆んど人生其者を指すやうな廣い意味に用ゐられ、従つて其の言葉の眞意義も、之に伴ふ精神に重きを置いて居る。吾國でも、昔は武士に二言なしと言つて、武士の眞直ぐな精神を言ひ現はしたものであるが、西洋の商人に對し、先方を疑ふやうなことを言ふと、往々『自分は實業家である』と強く言ひ放つて、其の無禮を咎めるやうな態度を示すことがあるのは、實業精神の發露である。斯くの如く西洋では實業には之に伴ふ一種の強い吾國の武士道の如き精神が附いて居る。而して吾が武士道は武士の間に限られて居つたが、西洋に於ける實業の精神は商工業者は勿論、苟くも仕事をするものには

皆備つて居る。或は全部が此の精神を有たないにしても、仕事をするもの全體を此の精神が支配して居る。

吾が國民の誤解

吾國に於ては、武家制度がなくなつてから、武士道の精神は漸次衰へつゝある。之に代つて吾々が受入れねばならぬのはこの實業の精神である。然るに吾國に於ては、實業が極めて狭く解せらるゝはまたしも、時としては、悪い意味に解せられ、實業と言ふと大資本家の仕事であつて、何か世の爲めにならぬものゝやうに誤解して、之を非難せんとするが如き考へ違ひをするものすらある。

實業と虚業

繰返して言ふ。實業とは、虚業に對し、眞面目に働らく者の仕事の總稱である。それが地主であらうが、小作人であらうが、店や工場の主人であらうが、其の雇人であらうが、皆實業に従事するものである。またゲ

リー氏が言つた如く、醫師、辯護士は勿論、苟くも仕事をするものは、總て實業の中に包含せらるゝものである。しかも實業には、一種の強い、勤勉にして眞面目なる精神が伴ふものである。然るに吾國に於ては其の意義が時として誤り解せらるゝのみならず、之に伴ふ立派なる精神のあることが認められて居らぬのは、誠に遺憾である。私はかく考へて、この讀本の第一章に於て、先づ實業なる言葉の意味を明かにしたのである。

二 實業の精神

實業と道德……商人と屏風は——……眞の成功の礎……富圖大盡……因果
 はめぐる小車……致富の手段を擇め……西洋の諺に……吾が實業道德の今昔
 ……拜金思想……百弊の基

實業と道德
 商人と屏風は——

實業に最も大切なるはその精神である。然るに吾國に於ては、永い間
 實業と道德とは一致せないもの、やうに一般に誤解せられて居る。昔の
 諺にも、商人と屏風は曲がらねば立たぬ、と言つてゐる位で、商人は曲
 がつたことをせぬと立行かぬもの、やうに一般に誤り考へられて居つた
 時代もある。尙今日も幾分此の思想が残つて居る。

眞の成功の礎

富圖大盡

然しながら、これ程間違がつた考はない。私は實業の眞の成功不成功
 は、全然其人の道德心の強弱に依るものと思ふ。然るに吾々が實業界の
 成功者を見ると、往々正直や眞面目では成功するものでないと思はしむ
 ることがないでもないが、靜かに人生の成行を考へて見ると、眞の成功
 なるものは、強い道德心の基礎の上に立つてのみ始めて之れを認めるこ
 とが出来たものであつて、一時の僥倖や、世の公益を害するやうな手段
 に依つて得たる成功なるものは、浮雲の如きものであることが解る。嘗
 てマニラの富圖に當つて驕奢を極め、一時は富圖大盡とまで歌はれたも
 のもあつたが、今日は消えて跡方もない。近くは勸業債券の圖に當つて
 身を持崩し、終には其雇主より懲罰解雇に附せられた若者もある。況ん
 や他に不利を及ぼして已れを利せんとするが如き手段方法にて成功せん

因果はめぐる小車

とするが如きは、如何に其者が奸智に長けて居つて一時世人の目に成功者のやうに見えても、因果はめぐる小車の如く、自分一代の間でも、不義の富に一身一家を苦しめ、却つて貧しき人々の境遇を羨むやうになるは必定である。

致富の手段を擇め

吾國に於て、昔より、積善の家に餘慶あり、と言ふ諺がある。是れは一面の眞理を言現はしたものであるが、私は此の諺を、困苦精勵正しき手段にのみ依りて富める積善の家に餘慶あり、と改めたい。富める者が善行を爲すは誠に結構なことであるが、先づ富まんが爲め、一時の僥倖を期するはまだしも、手段方法を擇まず、公益を害するをも厭はざる致富の術に依りて成功せんとするが如きは最も慎まねばならぬ。苟くも實業に従事するものは、正直で、眞面目であること、昔の武士の精神の如

西洋の諺に

くあらねばならぬ。

西洋でも、古い諺に、子に向ふ父親の言葉として、「お前は成る丈け正直に金を作れ、いや正直は第二として、先づ金を作れ」と言ふやうなものもあり、或時代には、實業の中でも商賣する人々の間に、道德を無視するやうな行爲が悪いと認められなかつたこともあるが、今日に至りては、さう言ふ考へは全く一般に容れられぬやうになつた。

我が實業道德の今昔

吾國に於ける實業道德は、昔と今と較ぶれば、昔の方が高かつた。商業に就て之を見ても、昔の町人の方が今日の商人よりも遙かに律義であつたとも言へる。然しながら、それは商賣人の罪でない。明治維新の改革に依り解放せられたる町人は、權利を與へられて義務を教へられなかつた。加ふるに、今日色々の新思想が輸入されるやうに、以前亞米利

拜金思想

百弊の基

加などで流行した拜金の思想が盛んに輸入され、宣傳された爲め、本家の元々の亞米利加では、夙の昔に流行らなくなつた實業に對する誤つた思想が、吾國の商工業者の間に今日まで依然として残つて居るのである。今日吾國に於て、個人の品性の低いのも、政治經濟の行詰まりを來したのも、國民思想の動搖を來したのも、皆其の根元を尋ねれば實業の眞の精神なるものが、吾が國民の間に理解されて居らぬ爲めである。依つて私は此の大切なる實業の精神を明らかにせんが爲め、此の讀本を公にするに至つたのである。

三 自尊心

自尊心の意義……一人位の力では……人間一個の力は偉大……自尊心と國家……英國一會社の自信……外務省に打ち込む……然るに吾が商業會議所は……宗教家大會の決議……一實業家の抗議……英國實業家の意氣を見よ……自尊心と義務觀念……弱い道徳心……三十六計逃ぐるに如かず……西洋人の義務觀念……英國國民の義勇奉公……イトンの健兒……個人主義と奉公心……癩病島の一挿話……惠金よりも儲金……誰れにも自尊心がある……或るスライキと自尊心……名人氣質……心の持ちやう次第……大量生産と社會奉仕……團體的成功を誇れ……遊戯と勞働……自尊心は他尊心……鮮人學生の述懐

實業の精神として、第一に吾々が貴ばねばならぬものは、個人の自尊

自尊心の意義

心である、自尊心とは空威張することではない、自らを正しくすることである。言葉をかへて言へば、自分を重んずることである。更らに言葉をかへて言へば、自分一個の力を信ずることである。

一人位の方では—

吾が國民は此の自尊心を全然缺いて居ると言つてよい。自分一人位の力ではどうすることも出来ないと言ふことは、吾々の時々耳にするところであるが、これほど實業の精神に反する弱い心はない。時計の如き精巧なる機械でも、ヒン一つぬければ直ぐ止まつてしまふ。小石一つ動かしても、地球の中心が狂ふと言ふのに、人間一個の力の偉大なる事を信じないやうでは、人間としての資格を失つて居るものである。斯かる心掛では、個人として實業の上に成功出来ないのみならず、斯かる個人より成る國家社會は、健康體と言ふことは出来ぬ。

人間一個の力は偉大

自尊心と國家

英國一會社の自信

先年、英國のウキルソン木管會社の木管を、私の従事して居る會社で買入れた。ところが、其の木管の中に、多少焦げて傷んでゐるものが混じつて居つた。それ故私は手紙で、三井物産會社を通じて、ウキルソン木管會社へ注意を申送つた。ところが、其後暫く経つても返事が來ぬ。どうした譯かと怪しんでみると、ウキルソン木管會社から東京の三井物産會社に雇はれて居る英國人のところへ手紙が來て、「鐘淵紡績會社の用度係と他の木管會社との間に不正な關係がありはせぬか、俺の所で作る木管に粗製品があると云つて來たが、どうも不思議である。」と言つて來た。私はこの事實を三井物産會社の雇英人が言ひ難さうに話したので聞いて、英國實業家が如何に自信の念の強いに驚かされたのである。そこで、私は傷んだ木管を一樽送つてやつたので、先方もそれで漸く理解

したことがある。

其後のことであるが、英國の有名なるフラットと言ふ紡績機械を拵へる會社から送つて來る機械附屬品に時々粗製品がある。それで私は、之を平常から心易かつた英國總領事のボナー氏に話した。ところが、それは一大事であると言ふので、氏は直ちに本國の外務省に其事を詳細報告した。すると外務省は之を領事の報告として印刷に附して公にすることになつた。然るに倫敦の商業會議所は、此の報告書を見て、英國外務省に押かけ、「自分の國の領事が自分の國の製造所の缺點を報告し、其の缺點を外務省が公の書類を以て一般に發表すると言ふことは怪からぬ話である。」斯う言つて振込んだので、外務省でも非常に困つたと言ふことを、私は後よりボナー氏から聞き知つたのであるが、これ等も英國商

外務省に振ぢ込む

然るに吾が商業會議所は

宗教家大會の決議

一實業家の抗議

人の如何に自尊心が強いかを示す實例である。吾國では、各地駐在の領事よりの報告に、屢々吾國輸出品の粗製濫造に就て記載したものが公にされて居る。然るに吾が商業會議所の問題になつたことは曾て聞かない。

また先頃英國に宗教家の大會があつた。此の大會に於て、「英國も今度の大戦争の結果、多くの成金が出來て、實業家の風儀が悪くなつたから、之を匡正する爲め、吾々宗教家が實業道徳を鼓吹しなければならぬ。」と言つて、之れに關する一の決議案が提出せられやうとした。すると、其席に居つた實業家の一人は、立つて抗議を申込み、「自分はマンチエスターに於ける二萬の會員を有する棉花取引所の役員であるが、吾々實業家の間に、若し不道徳な者があれば、一刻も其儘にしては置かぬ、吾々

英國實業家の意氣
を見よ

自らの力に依つて之を排斥し去る、何んぞ、宗教家諸君の力を要せんや」と叫んで、遂に其の決議案を其儘に葬り去らしめたと言ふことである。斯くの如く英國などに於ける實業家の態度、自尊の精神と言ふものは、實に驚くべきものである。

自尊心と義務観念

以上の様な話丈をすると、自尊心とは、向行きの強い、手前勝手なことを主張するもの、やうに誤解せらるゝ虞れもあるが、自尊心の強い國民は、夫丈け自分の爲さねばならぬ義務を充分に盡すといふ観念を持つて居る。

弱い道徳心

吾國では、遠慮深い引込思案をもつて一つの美德のやうに昔から教へられ、今日でも此の弱い道徳心が一般を支配して居る。此の日本固有の道徳心なるものが、遠慮すべきは遠慮し、控目にすべきは控目にし、爲

三十六計逃ぐるに
如かず

さねばならぬことは充分に行ふと言ふのであれば、至極結構である。然るに事實は之に反し、吾が國民の多數の道徳心には自尊心も乏しく、同時に義務観念も少なく、何事も逃げられるだけ逃げると言ふ、卑しい心が潜んで居るから、決して之を美德と言ふ事は出来ぬ。昔からの諺に、三十六計逃ぐるに如かず、と言ふが、権利の方面も主張しない代りに、義務の方面も成るべく逃げやうと言ふのが、吾が國民通有の誤つたる卑屈なる道徳心である。更に近來に至つては、権利だけは無暗に主張するが、義務は免がれやうとする横着な心を持つものさへ見受けるやうになつた。西洋人は個人主義だと言つて、自分の権利のみを主張するやうに誤解して居る人もあるが、個人主義は、自尊心の基礎の上に立つものであつて、自尊心を貴ぶ西洋人の義務観念は従つて非常に強い。今度の世界大

西洋人の義務観念

戦争までは吾が國民の中に、個人主義の英國人のことであるから、命を
 的にする戦争には最も弱い國民であらう、それに引かへ吾が國民は、外
 の事は兎も角として、戦争だけには強い、武士道の國であるからいざ戦
 争と言へば何人も進んで、一身を犠牲にする、この一點では、英國人な
 どとても足許へも寄れぬと思ふて居た人も多かつた。然るに此度の世界
 の大戦争に於ける英國人の態度は、吾々をして誠に耻かしいと感ぜしむ
 るものがある。

英國では戦争の半過ぎに至るまでは備兵制度であつて、徴兵制度では
 なかつた。然るに一度國家が英國人に向つて其急を訴ふるや、國民は皆
 進んで之に應じた。殊に上流の子弟が率先して政府の募集に馳せ参じた。
 其の有様は、英國國民の公に對する義務觀念が如何に強きかを示すもので

英國國民の義勇奉公

ある。

一例を擧ぐれば、吾が國の學習院がそれに倣つて建設せられたと言は
 れる。かの有名なるイートンは、英國の貴族、大政治家、大富豪の子弟
 が教育される學校であるが、戦争の起るや、直ちに、イートンの學生二
 千名の中、不合格者二百名を除き、一千八百名が募集に應じた。殊に吾
 々をしてしみじみ其の健げなる行動に感ぜしめたるは、イートンの學生
 が士官になる資格があつたにも拘はらず、當時兵卒の應募者が尠いと言
 ふので、自ら兵卒となつて出征し、フランスの野に戦つて、其の大部分
 は戦死又は負傷し、今日イートン校の廊下に、其の名前が刻付けられて
 あると言ふ事である。

イートンの健兒

獨りイートンの學生のみに止まらない。吾が國の帝大や、慶應、早稲

個人主義と奉公心

田とも言ふべき、ケムブリツヂ、オックスフォード、其の他の大學學生は皆勇んで出征した。また民間に於ける銀行、會社の事務員等も、進んで應募した。此の一事を以てしても、吾等は自尊心より成る個人主義の國民は、個人としても國家の一員としても、共に尊ぶべき強い利他心及び奉公心を有するものなることを知つて、自ら深く省みる必要がある。

「工業と人の本心」と題する西洋の書物の中に、左の様な話が書いてある。

癲病島の一挿話

『亞米利加の支配するフェリツピン群島中に、癲病患者を收容して居る一つの小さな島がある。此島では、多くの患者を統治するため、男子子供總ての患者に對し、一週間毎に一定の恵金を施し、其の代り男患者だけに、開墾とか、道路の修繕とか、其の他の勞役を課する規定

恵金よりも賃金

を設けてあつた。すると、男患者側に段々不平を言ふ者が續出して、終に島廳に訴へて來た。そこで島廳では吏員を派遣して不平者の訴を聞き取らせたところ、「自分等は恵金を貰ふの故を以て、賃金も受けずに勞力を献上せねばならぬのは、實に憤慨の至りに堪えぬ」と言ふのであつた。それで島廳は審議した上、從來の施し金を廢し、勞力に對する賃金を定めて給與することにした。其の結果は、毎週定めて置いた施し金よりも勞力に對する賃金の方が遙かに少かつたにも拘はらず、遂に一言の不平もなくなり、一同至極満足して勞役に従事して居る。』

斯の如く人は誰れでも自尊心を持つて居る。唯西洋人は之を益々強め東洋人は弱くしたに過ぎない。

誰れにも自尊心がある
或るストライキと自尊心

近來方々の工場でストライキが起るが、時としては其のストライキが

被傭者側に於て自尊心の缺けてゐることに原因することがある。吾々が時々目撃することであるが、小さな借家に二、三の機械を据付けて、眞黒になつて自前で働いて居る鐵工がある。其の仕事は可なり烈しく、時間も可なり長いやうでも、一向不平の色が見えぬ。然るに、それが一つの工場の従業員となると、其の收得は寧ろ多く、時間は短かいにも拘はず、不平の聲が高くなつて、終にはストライキにまで立到る。是は一見如何にも不合理の様であるが、それは大工場組織になると従業員が製品に對する自尊心を失ふからである。仕事が複雑になり、分業が盛んとなれば、自然一人の従業員が一つの品物を拵へる譯に行かず、部分々々を造つて大勢で完成することになる。従つて自らは機械の一部のやうに感ぜられ、製品に對しては自尊心を有ち得ぬ結果となるのである。

名人氣質

昔の名人などを見ると、中々苦勞したもので、到底今日の工場従業員の比ではない。それにも拘らず楽しんで刻苦したのは何故であるか。それは申すまでもなく、自分一人で一つの仕事を仕上げるから、仕事の中に自ら興味が湧き、出来上つた品物に對しては強い自尊心を有ち得たからである。日本に於ても左甚五郎や其の他色々の名工が、名利を考へず其の仕事に精神を打込んだ逸話が多い。

然し、心の持ちやうでは、今日大工場組織の下に働く多くの従業員と雖も自尊心を有てないのではない。部分的に働いて居つても、總體には一つの品物を作上るのであるから、自分を機械のやうに思はず、製品に對する自尊心を保つ事に努めねばならぬ。成るほど一人で一つの品物を仕上げられぬのは誠に興味の無いものではあるが、これは今日の

心の持ちやう次第

大量生産と社會奉仕

團體的成功を誇れ

遊戯と勞働

大工業組織の止むを得ざる缺陷であつて、然も大工場組織に依りてこそ、社會全體の爲め多量の生産を爲し得るのであるから、仕事に興味が無いといふ位の缺陷は忍ぶべきで、社會に對する奉仕の意味に於て、そこにも一種の自尊心を見出し之れを満足させるより外に途がない。

今日の大工業組織の下に働らく従業員が、團體的興味、團體的成功に對する誇りを、一工場又は一會社として有つことは自尊心を發揮する一方法であるベース・ボール、フット・ボールなどの遊戯を見るに、之に加はる者自身の興味の強きは勿論であるが、更らに其の選手を出して居る學校なり、銀行會社なりの團體的興味も亦非常に大なるものがあるのは、之れ全く團體としての成功に對する一種の誇りより發生する自尊心に依るものに外ならない。勿論遊戯は苦痛もなく興味を湧くが、勞働の方は

自尊心は他尊心

秩序的に、機械的に、働かねばならぬから、先づ働らく上に苦痛を覺え、團體としての興味も、遊戯のやうには湧き悪くいから、傭主側に於て此の呼吸を充分に呑込み、従業員に對する慰安の方法を講じ、又従業員の團體としての成功に興味を持たせる種々の方法を講ずる事が必要である。

今一つ自尊心に就て注意を要することは、この心で自らを持すると同時に、他人の自尊心を傷けぬやうに、お互に勉めることである。殊に吾々は朝鮮臺灣の如き、人情風俗を異にした人々とも、今は一つの國民となつて、お互ひに敬愛せねばならぬ地位にある。頃日英國より歸朝した知人より、次のやうな話を聞いた。

『日韓併合令發布の日に、帝都のある大學校の教室で、ひとりの鮮人學生に對つて日本の學生が、「今日から貴様は日本帝國臣民だぞ」と傲

鮮人學生の述懐

然言ひ放つた。その時鮮人學生は憤然として、「成程法律上韓國は日本の一部となつた、然し吾々朝鮮人は何時までも朝鮮人である」とやり返し、席を蹴つて出て行つた。其の後この鮮人學生は、間もなく日本を見捨て、英國に遊學し、同地大學で親しく交つた自分に此の事を述懐して當時の感情を語つた。』

思ふに日本の學生は何心なく言つたものであらうが、かういふことは、他人の自尊心を重んじないところに發して、意外なる結果を來すものであるから、同國民間は勿論、外國人に對しても、充分に注意して、苟にも其の自尊心を傷けるやうな行ひをしてはならぬ。

要するに、實業の精神の中で、最も尊ぶべきは個人の自尊心であつて、個人の人格は、此の自尊心が完全に保たれなくては立派なものにならぬことを悟らねばならぬ。

四 自制心

醉姿狂態……團體となると……西洋のストライキ……日本のストライキ……
 ……電車のスパーク………笑止千萬………恐るべき結果………一生貯金せぬ人………
 ……ロバート氏の訓戒………貯金をするには………資本は自制心の結晶………見當違ひ
 ……の非難………不景氣の原因………債權國になれたが………政治家の自制心………政
 治と經濟の關係………猶ほ遅からず………耐へ難きに耐へよ

自尊心ある者には自制心が伴ふ。近來は酒に酔つはらつて大道に寝て居る様な人は餘程少くなつたが、それでも宴會等で随分亂暴な振舞をする者を往々見受ける。又電車の中で、花見歸りの連中が野の中でするや

醉姿狂態

團體となると

うに高聲亂舞して、他の乗客に迷惑をかけて憚からぬものがある。これを見て誰も感心するものはなからう。

今日では、かふ言ふ自制心のない者は段々減つて来たが、それが團體となると、これと同じ様な恥かしい行を素面で平氣でするのみならず、人をなぐつたり、傷けたりする事さへ反對に段々増加する傾向がある。

西洋のストライキ
日本のストライキ

西洋ではストライキをして居る場合でも、従業員は機械の掃除日には必らず工場に入つて機械の手入れをする。然るに吾國に於ては、傭主の爲めにも自分等の爲めにも大切な機械を打毀す者すらある。先年、或都市の電燈會社にストライキの起つた時、發電機を毀はした者があつたといふ。電力や電燈の如きは、社會公衆の利益幸福に大關係あるものである。それすら一時の感情に驅られて、打毀す如きは、自制心の乏しいの

電車のスパーク

も餘りに甚だしいと言はねばならぬ。

笑止千萬

昨年私の友人が目撃した話である。神戸市電の運轉臺にパット火花が散つた。すると電車の中は非常な大混亂で、友人の奥さんは眼鏡を打毀され傷さへ受けたと言ふことである。ところが、運轉臺の火花は、高壓の電流が来た時に其の安全の爲めに切れる安全スイッチが働いたままで、火花こそ安全を示す合圖であつた。然るに、乗客が吾れ先きに逃げ出さんとした爲め、かゝる混亂を來したのは笑止千萬である。

恐るべき結果

私は此の話を聞いて、つくづく吾が國民の自制心に乏しいことを歎ぜざるを得なかつた。若しこれが電車の中でなくて一都市に起つたとしたら何うだらう。更らに是れが一國の内此起つたらどうであらう。其の及す結果は洵に恐るべきものがあるであらう。

一生貯金せぬ人

ロバート氏の訓戒

これはまた貯蓄を奨める場合によく聞く話であるが、此の位の収入で生活に逐はれ、貯蓄が出来ぬが、今少し収入が増したらば、と言ふ人が尠くない。然しながら、かう言ふ自制心の乏しいことを言ふ人は何程収入が多くなつても貯蓄せぬ人で、一生借金に追ひ廻はされねばならぬ。今より三十四、五年前のことである。私が東京のイリス商會に勤めて居た時、一日其の支配人のロバート氏が私に語つた身の上話に、「自分が初めて御國に来て神戸で働いた時、僅かに月給五十圓を貰つて居た。(其の當時の月給五十圓と言へば日本人にしてはさう少い給料ではないが、西洋人の給料としては薄給であつた。)しかし私は、其の五十圓の内から節約して貯蓄することを忘れなかつた。爾來今日まで毎月貯蓄を繼續して居る。ところが、世人は往々自分は収入が少いから貯蓄が出来な

貯金をするには

資本は自制心の結晶

見當違ひの非難

いと言ふが、これは既に貯蓄する丈の強い意志のない證據で、斯かる人は何程収入が多くなつても、貯蓄せぬ人である。」と言つて、其の當時五十圓の給料を貰つてゐた私に、種々適切な例を挙げ、懇ろに貯蓄の必要を説いてくれた。

少し話は横道に入るが、貯蓄をするには非常な自制心を要するもので決して樂に出来るものでない。是れ幾千年の昔から貯蓄を説いても、猶少しも其の必要が去らぬ所以である。近年吾國で、資本家に向つて無暗に反感を起したり、攻撃したりする者があるが、元來資本家の有する資本なるものは、此の強い自制心の結晶であることを知つたならば、此人々の資本家を非難するのはつまり自制心を非難すると同じ事で、是以上見當違ひのことはないことを悟るであらう。勿論、世の資本家の中には、強

慾非道のものがあつて、貯蓄したる資本を種々の仕事に向つて利用する場合に、己れの利益のみあるを知つて、他人の利益を全く顧みざる不道徳な行ひをするものがある。何れ後の章に於て富豪の責任に就ても詳説する積りであるが、一概に資本家を攻撃する近時の傾向は、自制心から考へても其の誤りなることが解かる。

資本なるものは、國民各個が自制して蓄積するより出来るものであるが故に、之れに對しては最も大切に取扱はねばならぬことは今申した通りであるが、若し國民の大多數が自制心なき時は、國民經濟の上に重大なる悪影響を來たすことは申すまでもない。昨今不景氣であるとか、國民經濟の行詰りであるとか言ふ聲が高いが、その原因の大部分は、國民の大多數が戦時好景氣の際に、自制心がなかつたがためである。此の度

不景氣の原因

債權國になれたが

政治家の自制心

の戦争で、吾國は國民に自制心さへあつたなら、僅かながらも債權國となり得たのである。戦時中吾國の受取勘定となつたのは、貿易の差額と船賃其の他の収入で、二十八億圓である。此金を持つて、吾國が日露戦争前後より英國や、佛蘭西、亞米利加などで募集した磅、法、弗の公債を全部買戻し、尙殘餘の幾分を英米の戦時公債に投資して居つたなら、戦時中の空景氣も起らず、一時成金の夢は見られなかつたにしても、今日の不景氣の苦みもなく、物價が暴騰して智識階級に生活困難の苦みを與へず、思想の悪化も大に避け得られたであらう。勿論それは國民ばかりの罪ではない、政治の局に當つた政治家の自制心が乏しかつたことも半ばは其の原因であるが、しかし立憲政治の下に於ては、國民さへ政治と經濟との關係を理解して居りさへすれば、政府の財政政策をも容易に

猶ほ遅からず

動かし得るものであるから、結局國民の招いたる災と言ふ外はない。今日でも猶ほ遅くはない、國民が自制心強く、自ら節約するのみならず、政府をも節約せしむる必要を悟つたならば、尙永久の不景氣を喰止め、國民經濟の立直しが出来るのに、今尙それが抄々しく運ばぬのは、慨歎に堪へない次第である。

耐へ難きに耐へよ

昔の諺に、耐へ難きに耐へたる事は想起する毎に愉快なり、と言ふ事があるが、自制とは耐へ難きに耐へる事である。吾々國民にして此の自制心が強くなければ、個人としても、國家としても、到底其の發達を期することは出来ない。故に吾々は此の自制心を大に強めねばならぬ。

五 自治精神

日本人の奇妙な習慣……長い封建政治の餘風……國家に對する依頼心……關東大震災の時……政府に絶がらぬ……桑港大震災の時……憲政の基礎……砂上に樓閣を築くもの……ゲーテの喝破……依らしむべし知らしむべからず……青年團と自治的訓練……公費で青年團へ補助とは……タイムスの一寄書……愛國か愛錢か……ポールドウイン氏の篤行……一大財政難……市政不振の原因……上海の市政……市参事會員は一流の實業家……ジョセフ・ロウン・トリー氏……自治の何たるを解せず……義務と利害の両面より……倫敦・東京・大阪の財政……國費の膨脹と整理……國民が自覺さへすれば……私は悲觀せぬ……株主總會の今昔……會社の社長と役人の古手……章魚配當の愚を悟れ

日本人の奇妙な習慣

長い封建政治の餘習

國家に對する依頼心

自治精神とは依頼心の正反對である。嘗て吾國に駐在せる米國の領事が本國に報告せる中に、日本人には誠に奇妙な習慣があつて、一人が成功すると親類縁者等が大勢寄り纏つて、終には折角の成功者をも倒してしまふと書き送つたと言ふ事を聞いた。これは餘り極端な話であるとしても、多少吾國に於てはこれに似よつた傾向がないでもない。吾國は長い間封建政治の下にあり、甚しく獨立心を傷められ、義理人情の道徳心は非常に強烈であるが、自治精神に至つては、甚だ弱いところがある。個人の場合には暫く措いて、吾が國民に此の自治精神が乏しい、爲め國家に對する依頼心が非常に強く、廻り廻つて個人の損失となるにも拘はらず、何事も國家に纏らんとする弊害が、各方面に現はれて居る。

自治精神の強い點に於て、英米兩國人の態度は殆んど吾が國民の想像

關東大震災の時

だも及ばぬ處がある。大正十二年關東大震災の起りし時の事であるが、私は同年九月四日英國商務官ホーン氏の紹介で、横濱のソマートストンと言ふ英國人に、東京に於て面會する約束をして居つた。ところが、九月一日大震災が起つたため、其の儘に打過ぎてゐたが、程なく横濱より神戸に避難せられたソマートストン氏から電話が懸つて面會を求められたから、直ちに面會した。氏は横濱に於ける商務官ホーン氏の慘死を語り、又自分の妻も慘死したとの話を爲し、自分は二十六年間日本にて生活し、日本を以て墳墓の地とする積りであつたが、最愛の妻を失ひ、唯一の財産たりし家は焼かれ、今や已むなく同情者の寄附金中より米國迄の旅行費を貰つて、彼國に渡り新なる生活を見出す積りである、折角約束した事であるから、出立前一應面會したいと思つて、面會を求めた次

第であると話された。それで私はあなたの國の保險會社は、あなたに多少の見舞金を拂ふであらうかと尋ねたところ、保險證券には地震には保險金を拂はぬと書いてあるから、自分は請求せぬが、請求したとして自分の國の保險會社は、拂つても呉れぬと答へられた。更に私は横濱の居留地はあの様に丸潰れになつたに就いては、之を復興するに、あなたの國の政府より多少の復興費を支出するかと尋ねたら、吾々は斯の如き場合に於ても、決して政府に頼がらぬ、又自分の國の政府は、かふ言ふ場合でも特に復興費を支出する事はないと言つて、唯奥さんを失くした事だけを悔んで、繰返し／＼嘆いたのみで、少しの依頼心も見えなかつた。全く私は英國人の自治精神の強いのに感嘆した。

先年米國桑港に震災があつた時、市民の重なる者は直ちに市役所に驅

政府に頼がらぬ

桑港大震災の時

付け、驚き騒ぐ市の吏員を静め、直ちに小委員を作り、各自擔當の部署を定め、一般市民の救濟其の他の世話は勿論、復興の衝に當つた。當時の大統領ルーズベルト氏より、赤十字社の幹部をワシントンから送るに付、市民救濟の仕事だけは之に任かす様に、と言ふ電信が來たのに對し是れ大統領と雖も市民の自尊心を傷くるものなりとして、市民は却つて激昂し、漸く小委員と赤十字社の幹部と相提携して救濟に當ると言ふことに話が纏まつたと、桑港震災に關する報告書にある。これを見ても米國人の自治精神の如何に強いかを知る事が出来る。吾々は他の道德心に於ては、英米人に比し如何に優秀であるとしても、此の自治精神の上には於ては大いに彼等に學ばねばならぬ。

立憲政治や自治制度は、恰かも煉瓦や鐵筋コンクリートの建物が強固

憲政の基礎

なる基礎を要するが如く、強い國民の自治精神の上に打建てられてこそ確立するのである。吾國は立憲政治の國であり、近く普通選挙が行はれんとして居る。自治制も之を制度形式の上より見れば完全に行はれて居るが、立憲政治も自治制も、皆其の制度の下にある公民の自治精神の強くして、初めてこれを完全に運用することが出来るのである。然るに吾國の如く制度形式のみ整つて、其の基礎たる自治精神が弱くては、基礎工事をせずに重い建物を建てたも同様で、此以上の危険はない。

これを國民精神から言へば、今日よりも昔の方が強かつたとも言へる。今日のやうに自治精神が弱い國民に、權利思想のみ興へれば、其の結果が豫期の如くならないのは當然である。かの有名なる哲學者ゲーテは、『如何なる政府が最も善良なる、曰く、國民に自治を教ふるものは是なり』

砂上に樓閣を築くもの

ゲーテの喝破

依らしむべし知らしむべからず

と喝破して居る。然るに吾國の政治は多年民をして依らしむべし、知らしむべからずの方針を執つて來た。近來に至り自治の精神の必要に就き多少の注意を拂ふ様になつたが、それもほんの表面だけであつて、實際は依然として國民は自治精神を失ふ様に導かれて居る。然しながら立憲政治の下にある國民は、政府に依つて自治精神を教へられんとするやうではならぬ。國民自ら覺醒して、自治精神を強めることが大切である。

近來各地の識者が、吾が國民に自治精神の乏しきを憂へ、將來吾が國家を荷ふ青年に自治精神を鼓吹せんが爲め、青年團を組織し、自治的訓練を與へつゝある事は至極結構な事であるが、青年團を統率する人々が、自治精神の眞意義を解して居ない時は、青年に自治を教へんとして、却つて依頼心や事大思想を助長せしむる惡結果を來さぬとも限らぬ。私は

青年團と自治的訓練

公費で青年團へ補助とは

地方に依り、市町村長が青年團の發達を奨励せんが爲め、公費の中より補助金を與へてゐるものがあると聞いて、意外に感ずるものである。青年に自治精神を教へんとして、公費の中より金を青年團に與ふるが如きは、全く自治精神を失はしむることを爲すものにして、是程間違つた事はない。青年團は其の費用を自らの力に依りて、地の父兄又は有志者に仰ぐは可なるも、苟くも公費の中よりは一錢と雖も受くべきものではない。

由來吾が國民中には、國家なるものは國民が支へる可きものであることを考へずして、國民は國家に倚り繼ることが出来るものと誤り解して居るものが多いが、斯の如きは立憲國民にあるまじき卑屈なる精神である。然るに若し誤つて青年に修養を與へんが爲め、青年團に公費を以て

補助を與ふるが如きことを爲さば、是れ青年をして國家に倚り繼がる依頼心を起さしむるもので、最も大切なる獨立自治の精神を傷けるものである。私は全國民市町村に於て青年團の公費の補助を與るものあらば、青年團より進んで公費の補助を辭退し、如何なる理由を以つてしても公費の補助を斥け、獨立自治の精神を形の上に於ても失はざらんことを望まざるを得ない。

タイムスの一寄書

今より六年前、倫敦タイムスに匿名の寄書が出たことがある。其の寄書の意味を簡單に申せば、初めに英國が此度の大戦争に依つて拂ひたる犠牲の大なるを記して、英國民をして自國の財政の窮地にあるを知らしめ、國を愛することが錢を愛することよりも善き事であることを理解せしめねばならぬ。それをするには金持階級の人々が任意に進んで國庫

愛國か愛錢か

に寄附することである。かくして一ケ年五千萬磅（五億圓）位の寄附金を集め、夫れだけ國債を償却する事が出来る様にしたものである。自分はこの事を二年間考へた。自分は自分が率先して此事を行ひ公になる事を好まぬ。誰か先導者が出ないものかと今迄待つて居つた。そして此間自分の財産を見積らしたところ、五十八萬磅（五百八十萬圓）あることが判つた。そこで自分は其の二割、十二萬磅（百二十萬圓）を以て戦時公債額面十五萬磅を買取り、之を政府へ提供して國債償還に充てんと決心した。自分は今日程國家の爲め有意義なる助けを與へる機會は、再び來らざるべしとの深き信念を以て、國家へ感謝の意を表する意味に於て之を寄附すると言ふのであつた。斯く言ふて匿名氏は、十五萬磅の戦時公債を國庫へ寄贈した。それが六年後の此頃となり、保守黨の首領で、

ポールドウイン氏の篤行

現首相たる當時の大藏卿ポールドウイン氏であることが知れ、一般が氏に對し尊敬の念を高むるに至つた。尤も當時氏の此の舉に續いて無名で寄附せる者も多少あつたが、其の額總計五十萬磅（五百萬圓）に過ぎず、毎年五千萬磅（五億圓）宛償却せんとするポールドウイン氏の希望は達せられなかつたが、これを以て見ても、英國政治家及富豪の中には、國家を助くる念が如何に強いかが解る。

一大財政難

今日吾國は一大財政難に陥つて居る事は、誰でも承知して居る所である。若し吾國民にして英國國民の如く、國民は國家を助くべきものであつて、國家に倚り繼がるべきものでないと言ふ自治精神があるならば、吾國の財政の如き容易に整理せられ得るものである。

今日の場合に於ては、苟くも政治家及富豪は勿論であるが、青年團の

如き自治精神を高めんとするものは、國家を助くべくして、一錢の微と雖も公費の助を受くべきものでない、と言ふ自治精神が發達するように、相互に努めねばならぬ。

また、吾國に於て市政が極めて不良なるは、全く自治制度の下にある市民が自治精神を持たぬためである。

此頃聞く所では、全國に於て數ヶ所の市長が缺員となつて、其の後任者を物色しつゝあるが、市長の俸給は他の官公吏のそれに比較して高給であるに拘はらず、之に應ずる者が尠いと言ふ事である。

此の一事を見ても市政の何れかに大なる缺陷があつて、其の缺陷なるものが、市民を代表する市會議員の中には立派な人があつても、其多數が不良なるに基くことが容易に想像する事が出来る。

市不振の原因

市會議員は市民が、己れ等に代つて市政を監督するが爲め選出する代表者であるにも拘はらず、市民は其の選舉に冷淡にして、有力者は何れも市會議員たるを迴避し、一般市民は市會議員候補者に多くの選舉費用を使はしむるやうでは、市政の不良なるは元より當然であつて、市民が市政に對する義務を怠る結果であることは、深く研究するまでもない事である。

上海の市政

隣國支那上海の市政を見るに、居留地内に住する市民の數百二十五萬人に對し、一ケ年の市費二千八百五十萬圓に過ぎず、而して九人の參事會員が市の理事者を指揮して、立派に其成績を擧げて居る。九人の參事會員は如何なる人々がなつて居るかを見るに、香港上海銀行の副支配人や船舶代理店マツケンジー商會支配人、スタンダード石油會社支店副支配

市参事會員は一流の實業家

人、バタースタキールド汽船會社取締役、アジア石油會社副支配人など、何れも上海に於ける有力なる一流の實業家がこれに當つて居る。而して九人の参事會員中一名は日本人がこれに當る事になつて居るが、此處にも日本人なるものが、兎角權利は主張するが、義務はこれを免かれんとする國民なる事を示して居る。

日本人が一人参事會員に選まる、事になつたのは、數年前日本居留民の熱烈なる運動に依つて初めて其の目的が達せられたものであるが、英米兩國人を代表せる市参事會員の顔振れより見て、日本人を代表する市参事會員は、上海に於ける三井物産會社や、正金銀行など有力なる銀行會社の代表者が之に當つてこそ初めて、日本人中より市参事會員を出すことを熱心に主張し、遂にその目的を達した趣旨に適ふものであるのに、

ジョセフ・ロウン トリー氏

自治の何たるを解せず

現在日本人の市参事會員は、滿鐵の出張所長がこれに當つて居る。勿論それは適任者であるが爲めであると思ふが、其地位より見れば、日本人一流の、公の仕事に對して成るべく煩累を避けんとする、自治精神の乏しき爲めではないかと想像される。

先頃日本へ來た英國ヨーク市のシー・ボラム・ロウン トリー氏の父、ジョセフ・ロウン トリー氏は、八十八歳までヨーク市の市會議員を勤め、自由黨の支部長をもやつて居つた。

市政や國政が良くなるには、斯う言ふ心掛があつて初めて實現するものである。吾が國民の如く、國政は勿論市政に對してすら、自ら進んで之を良くすることに骨折らざるものは、自治の何者たるを解しないものであると言はれても辯解する言葉がない。

義務と利害の両面より

然しながら、人を説くのに、唯義務の方面ばかりより其の必要を唱へても、多くの人々をして、進んで従来の冷淡なる態度を捨てしむる事は、困難であると思ふから、序に利害の上から見て、市政や國政に盡力する事が、大なる利益を招來するものであることを述べて置かう。

倫敦・東京・大阪市の財政

倫敦市は人口四百五十萬の大都市であるが、其の市費は大正二年一億八千萬圓であつたのが、今日と雖も四億圓に過ぎぬ。東京市は大正三年三千八百萬圓であつたものが、今日は二億四千四百萬圓に膨脹した。尤も其の中には震災の爲めの費用が七千萬圓あるから、假りに之を差引いても、一億七千四百萬圓で、ロンドンの二倍餘の増加に對し、四倍六歩の膨脹である。大阪市は大正三年二千四百八十萬圓で、今日は二億〇七百萬圓に膨脹して居る。近來東京や大阪に於て不景氣の聲が盛んである

國費の膨脹と整理

が、若し兩都市に於ける市民諸君が自覺して英米都市に於ける市民の如く市政を研究し、市政の上に一大刷新を行つたならば、兩都市に於て少くも一ケ年二千萬圓位の費用を節減することが出來はせぬであらうか。若しそれが出來れば、十ケ年も出でずして二億數千萬圓の金が市民の懐に残さるゝ勘定になつて、市の繁榮は容易に期待される。

更らに一國の政となれば、尙驚くべき利害が懸かつて居る。大正三年の國費十億圓が、今日は三十四億圓以上に膨脹した。若し一度國民が自治精神を發揮し、國政の改善に對し英國國民の如く努力するに至らば、毎年二億圓や三億圓節減する事は極めて容易である。國費なるものも一家の臺所の勘定同様、容易に膨脹し易いものであつて、これを節減するは困難であるやうに考へる人が少くないが、銀行會社の整理と同じく一度

國民が自覚さへすれば

整理の必要を認めて之に着手すれば、意外なる節約の途を發見するは、吾々が實際に當り常に經驗するところである。政府の仕事も、民間の銀行會社の仕事も少しも違ふところはない。銀行會社に於て、其の事業の經營振りが如何に不整理であつても、株主が之に甘んずる間は如何にもすることが出来ないと同様、立憲政治の下に於ける政府の仕事は、國民が國の政府を理解し、政治の良否が國民に大なる利害關係あるを知つて、財政行政整理の爲め國民が進んで之れが實現を期する覺悟を示さなければ、如何んともする事が出来ない。

去りながら一度國民に於て自覚するに至らば、今日の行政組織を改め、財政の上に大改革を施し、國民の負擔を輕減することは、株式會社に於て株主が一度立つて、其の業務の整理を斷行するに必要な適任者を之

私は悲觀せぬ

株主總會の今昔

に當らしむるに至らば、會社の業務が容易に整理さるゝと同様である。然るに今日まで、此の容易に爲し得る事が爲し遂げられぬは、吾國民に自治精神の乏しい爲めで、吾國の政治家中憲政の前途に對し悲觀するものさへある吾國民の現状を見れば、如何にもさふ言ふ感じもするが、然し私は悲觀せぬ。其の一例は以前銀行會社が總會を開くに當り、株主の出席を促がす爲め折詰辨當に一合入りの酒饌を添へて出す時代もあつた。さうすると、株主の中に店員等に株を分けて、總會の時に澤山の折詰や酒饌をもらつて得意がるものもあつたが、時勢の進歩と共に、如何に目前の慾に釣らるゝ株主も、總會で貰ふ辨當や酒は自分等株主の金で買ったものだと言ふ事に長い年月の間に悟つて、近頃は之を有難がる馬鹿な株主もなくなつて重役も自然止めるやうになつた。かやうに株式會

會社の社長と役人の古手

章魚配當の愚を悟れ

社の株主が其の非を悟つたとすれば、國民は日本國と言ふ一つの大會社の株主のやうなものであるから、自然と悟る時が来るに違ひない。また以前會社の社長などに缺員が出来る時、早速政府の當局者に頼んで官吏の中から選任して貰つて喜んだ時代もあつたが、近頃はかう言ふ風潮も止まつた。此等の點から考へて見ても、吾が國民が自分等の納める金の御裾分けを喜ぶの愚を悟り、又國民經濟に大關係ある政府の仕事は誰に託すべきかを悟る時が早晩来るに違ひないから、吾々は一日も早く其の時機の来るを促進せねばならぬ。

尙自治精神に就ては、言ひたい事が色々あるが、以上述べたる所で、自治精神とは如何なるものなりやが、略ぼ明らかになつたと思ふから、此邊で止めて次の章に移つらう。

六 博愛の精神

眞理は愛なり……燒野の雉子夜の鶴……愛を博めよ……平和の礎……獨逸の敗因……島國魂性……向ふ三軒兩隣り……世の中を固く治めるには……治安維持の根本義……眞の金儲けの途……負ひつ負はれつ……社會の恩……博愛心に乏しき國民……リツデル嬢と回春病院……日本の癩病患者を憐れむで……顔を合はすも恥かしい……解らない……女の踏切番と藝者……南北戦争とマンチエスター……正義人道の爲めに……愛は萬事に勝つ

昔の諺に、眞理は愛なり、と言ふ言葉がある。人間として愛の心のないものはない。燒野の雉子、夜の鶴、何れも親が子を愛する極致を言ひ表はしたものである。近松の淨瑠璃本を讀んでも、また有名なる作者大南

眞理は愛なり
燒野の雉子、夜の鶴

北の芝居の筋書などの中にも、日本人の本来よりの愛の心の沫ばしりが澤山に現れてゐる。

愛を博めよ

愛は人間自然の性情であつて、父母兄弟、姉妹の間には強い愛情があるが、それが次第に廣くなるに連れて、薄く成り行くものである。然しながら、吾々は此の愛の心を成るべく廣く推擴めることに依つて、初めて人間が社會を成し、相倚り相助くるの道を盡す事が出来るのである。故に文明國民たらんとせば、吾々は己れや又は己れに近いもののみを愛するに止まらずして、遠きものにも愛の精神を捧ぐる様に、博愛心を強めねばならぬ。

一國民にして博愛の精神が強ければ、其處に階級の争も薄らぎ、更らに一國民相互に愛し合ふのみならず、其の博愛の精神を他國民にまで及

平和の礎

ぼせば、他國民の尊敬するところとなつて、國と國との間の争をも避くる事が出来る。

獨逸の所因

獨逸國は先頃迄世界に於ける強大國であつたが、列國の嫉視するところとなり、遂に世界大戦争を惹起し、戦破れて今や一大國難に遭遇するに至れるは、獨逸國民が最も勤勉の國民であり、科學の知識に秀で、軍備に於ても世界列國中並ぶものなしと稱せられたるに拘はらず、獨り世界に覇を稱せんとして、博愛の精神に悖りたるが爲めである。吾々は己れあるを知つて他あるを知らざるが如き振舞を爲すときは、一個人としても又一國としても、自らを危くするものなる事を悟らねばならぬ。

島國魂性

吾が國民は多年封建制度の下にあり、此の小なる島國內に於て、幾多の諸侯の下に支配されたる爲め、自然と博愛の精神が乏しくなつて居る。

向ふ三軒兩隣り

殊に維新以來宗教や儒教が輕んぜらるることとなり、別して中産以上の
人々の間には此の傾向が甚だ強く、昔は隣保相扶くると言つて、少くも
向ふ三軒兩隣りの人だけはお互に助けあつたものであるが、近來に至
りては、世の進歩と共に生存競争も激烈となり、此の隣保相扶くる精神
さへ薄らいで來た。

世の中を圓く治め
るには

吾國近時の思想の動搖も、一部は此の博愛精神の乏しきにも因る。世
の中を圓く治めるには、決して法律や規則の如き冷たきもののみにては
其目的を達するものではない。然るに吾國に於ける上流の人士は、兎角
思ひを此處に致さずして、何事も法律や規則に依る政府の取締りのみに
一任せんとする傾向があるが、社會の治安は國民間に温かき愛の精神が
漲ぎつて、初めて完全に維持せらるべきものであると知らねばならぬ。

治安維持の根本義

眞の金儲けの途

また之を各個人の日々の仕事の上より考へても、博愛の精神に依り其
の仕事をするのが、結局有利なるものであることを知らねばならぬ。
多くの人は金儲けには人情を顧みないと思ふ様であるが、眞の金
儲けは相互に利することであつて、相手方に不利を與へて自ら利するは眞
の金儲けの途でない。若し世界各國の人々が自分の國だけの直接の利益を
考へたら、其の結果はどうであらうか。英國が石炭を賣らなければ伊太
利人は凍えなければならぬ。米國が棉花を賣らなければ、英國六千萬鎊
の紡績業は半ば其の運轉を止めねばならぬ。吾國の如き後進國は、世界
の先進國が其の發明や工夫せる種々の機械を賣つて呉れなかつたなら、
吾國の進歩發達は大いに阻害されたであらう。斯う考へて見ると、世界
各國は相互に負ふところがある。それを以て見ても、如何に吾々が博愛

負ひつ負はれつ

の精神を有するの必要なるかを知る事が出来る。

國內に於ても、各人の仕事の成功が自分獨りの力でない場合が多い。例へば土地の價が高くなるのは、人口の増加や或は都市の繁榮の結果に依る事が多いことは、誰にも解かることであるが、その他社會に負ふところが無いと一般に考へらるゝ仕事でも、皆社會發達の間接の利益を蒙らぬものはない。故に此點から考へても、博愛の精神は、社會に於て成功すればするほど餘計に之を現はさねばならぬ。然るに吾が國民の博愛の精神なるものは、之を英米國民に比し甚だ弱きものなるを感ぜざるを得ぬ。若し吾が國民にして見ず知らずの異人種の爲めに幾分にてても、其の教育を助け、又は其の病苦を救ふために寄附を募るものありとして、果して能く英米人の如く之に應ずるものあるや否や。遺憾ながら否と答

社會の恩

博愛心に乏しき國民

へざるを得ない。

今日米國よりは東京、大阪、其の他の都市に青年會館を建設するに當り、多額の費用を寄附して居る。而して多くの人々は、之れを使用して平然として居る。吾が國民が如何に博愛の精神に乏しきばかりでなく、其の爲さねばならぬ義務さへ怠るの甚だしきかにつき私が驚いた話がある。

大正八年吾國は大戦の好影響を受け、成金續出し、國民は好景氣に酔ふの時、神戸市のオリエンタル・ホテルから電話がかかつて、熊本の回春病院長リッデル嬢が面會したいとの事であつた。リッデル嬢の回春病院には、以前少しばかり寄附したことがあつたので、其の縁故を以て私に面會を求められたのである。私は直ちに面會したところ、リッデル嬢

リッデル嬢と回春病院

は曰く。「病院も英國の知己朋友が寄附を集めて送つて呉れたため、今日まで差支なく經營して來たが、今度の戦争で、英本國は他國に寄附する餘裕がなくなつた。所が米國の友人が若し日本で十五萬圓の金を集めるなら、三十萬圓アメリカで集めてやると言ふ事である。それが成功すると、最早それを基金として經營することが出来る故、將來の爲め是非さうしたいから、どうか十五萬圓の金を集めることに盡力して貰ひたい」と言ふことであつた。

熊本の回春病院なるものは、癩病患者を收容するもので、今を去る三四十年前に英國の相當な家の娘さんで、當時十八、九歳のリツデル嬢が日本へ來て、熊本へ行き、加藤清正公の神社に詣で、癩病患者が此の神社に參ると病が癒ると言ふので、大勢集まつて其の恢復を祈る憐れなる有

日本の癩病患者を
憐れむで

様を目撃して、憐みの情に堪へず、遂に日本に足を留めて、熊本市に今日の回春病院を起すに至つたのである。故に吾々日本國民は、自分の國の癩病患者を三、四十年の間も、主として英國の特志家の寄附金より成れる回春病院に託して殆んど顧みるものがなかつたのである。

私は考へた。此の好景氣で儲けた金を湯水の様に使ふ此の際に、如何に吾が國民が博愛の精神に乏しいからと言ふても、此の寄附金だけは容易に集め得ようと。私は直ちに承諾して、縣知事の協力をも煩はし、演説會までも開いて、一般に寄附を仰ぎたるのみならず、知合の人々にも訴へ、新聞紙にも此の記事を掲げてもらつて、八方盡力したが、當時私自らの寄附金を合せて、漸く六萬五千圓より應募者を得なかつた。當時東京でも、自分よりも遙かに有力な方々が斡旋者であつたに拘らず、一

顔を合はすも恥かしい
解らない

女の踏切番と藝者

萬五千圓より集らなかつたと言ふことである。私は昨年帝國ホテルに於て、リツデル嬢がアメリカから金を集めて歸つて來られたのに出會つて實に顔を合はすことも恥かしい様に感じた。

私は何んとしても吾が日本國民の博愛心の乏しい其心が解からぬ。一度總理大臣より午餐會にでも招かれて口説かれると、幾萬幾十萬圓の金も容易に投げ出す吾が國有力者の心の中に、何故に今少しく博愛の精神が起り得ぬであらうか。

私は此の間女の踏切番人が通りかゝりの子供を助ける爲め飛込んで、電車で轢死したと言ふことを新聞で見たところが、翌日の新聞を見ると此の女の踏切番の爲め多少にても同情金を寄附したものの中には、藝娼妓が多數あつた。これを見ると、吾國では上流の人々よりも博愛の精神

南北戦争とマンチ
エスター

正義人道の爲めに

は却つて人の賤しむ藝娼妓の中にあると言はねばならぬ。
英國の小學校の教科書の中に斯ふ言ふ事が書いてある。

『私等の祖先は、彼の南北戦争の時にあたつて、當時マンチエスターの紡績業が次第に發達し其の紡績業の原料は大部分米國より輸入して居つたので、此の戦争に於て、北部に味方することと南部に味方することとは、マ市に取つては重大なる利害關係のある問題であり、若し北部に味方して南部が敗北する時は、棉を耕作する奴隷は解放されて棉の輸入は當分止まり、マ市の紡績業は八十萬人の失業者を出すこととなると言ふ時に際し、マ市の紡績業者も紡績業に従事せる多くの人も、正義人道の爲めには北部に味方して南部を倒さなければならぬと言つて、終に北部に味方した。吾々の祖先の此の貴い精神を忘れては

愛は萬事に勝つ

ならない』

博愛の精神は正義人道に立脚し、時としては眼前の不利を招く様であるが、永遠には必らず勝利を得るものである。古き格言に「愛は萬事に勝つ」とあるが、其の言葉の通り愛は最後の勝利を齎らすものであり、各人の仕事の上に於ても愛は成功の要素であると知らねばならぬ。

七 卑屈心

「長いものには巻かれよ」……町奴の意氣……金持ちの前でベコ／＼……大臣御通過……首相でも普通の乗客……銀行家と兩替屋……幕府時代の金融……お定り相場……十人兩替の見識……今の銀行家顔色ありや……改むべき時機……不都合なる中央銀行制度……ラモント氏の演説……普選と新政黨……自卑心の發露……政策の争ひか階級の争ひか……英國の政黨の分野……精神の負傷者……「心に高下あり」……善玉・悪玉……ブライス子爵の熱辯……悪を行ふ衆人……何時も政府黨が勝つのは

自尊心なく、自制心なく、自治精神なく、博愛の精神もなき國民の心には、卑屈心が宿る。吾が國民は永い間封建制度の下に苦しめられた結

「長いものには巻かれよ」

果、其の心には自づと卑屈心が満ちて居る。吾國の諺に『長いものには巻かれよ』とか、『出る杭は打たれる』とか言ふのは、卑屈心を言ひ表はしたもので、西洋の諺の『正しくあれ、而して何者も恐れるな』と言ふに比べて見れば、正反對である。

町奴の意氣

吾國の歴史を見れば、幕府時代に於ても、武士の權威をも恐れなかつた町奴もある。正義の爲め一身を犠牲にした佐倉宗五郎の如きもある。又一身の危険を犯して、之を助けた伊勢屋五兵衛の如き商人もあつた。近年に至つても、正道を踏んで恐れざる志士義人がないではない。併しながら、之を國民總體の上から考ふれば、卑屈心が満ち満ちて居ると言はねばならぬ。

私が初めて關西に來た時、大阪の人々の集會の場所等へ行つて不思議

金持ちの前でペコ

に思つたことがある。それは其處に集まつた人々は、其席の金持の前に行つてペコ／＼頭を下げる。私は異様に感じたから、或人に尋ねたら、それは金持に近づいて置けば、何にか甘い事でもありはせぬかと言ふ僥倖心からだと言つたが、斯の如きは僥倖心と言ふよりも、卑屈心であると言つた方がよい。然しながら、昔の人は未だ卑屈心の中にも幾らか上品な所があつて、金持にあやかりたい、金持は何んとなく有り難いもの様に思つて近づいたものであるが、近頃は一層卑屈心が悪るい方へ發展して、直接恩恵を受けなければ金持にでも見向もせぬ。甚しきは金持が寄附でもすると、色々文句を言ふて之を非難する。卑屈心も此處に至りては情ない様な氣がする。

大臣御通過

大臣等の送迎なども、吾が國民卑屈心の現はれである。在野中の政治

首相でも普通の乗客

家は如何にも意氣地ないものの様に、昔で言へば尾羽打枯らした浪人の様に、國民は相手にせぬ。然るに一度朝に立つと、打つて變つて敬意を表する。大臣が往來する時、停車場で其の送迎の仰山な事は時としては何か大事件でも起つたかの様に思はせる事がある。殊に總理大臣とか大藏大臣とか餘計御利益が多さうな大臣の送迎は一層甚だしい。若し國民が大臣に敬意を表すると言ふなれば、それも一理ないでもないが、それなれば大藏大臣よりも國民の風教を司どる文部大臣は、一層送迎が盛んであるべき筈である。英國では大臣が公式に旅行する場合の外は送迎は一切しない。首相であらうが、其他の大臣であらうが、一人で鞆を以て群集にまぎれて乗降する有様は、何等普通の乗客と異ならない。是等も英國民は何等大臣たるが故に尊としとせず、在野の一政治家たるが故に

銀行家と兩替屋

幕府時代の金融

卑しとせず、何人も個人として其の義務を盡す上に於ては、其の立場が變るからと言つて毫も輕重しない。ホテルのボーイも電車の車掌も、己れは何等大臣と劣るところはないとの自尊心を持つて居るからである。また西洋では銀行家はバンカー (Banker) と言つて、幾分か公共機關の様な尊敬の意味が含まれて居る。従つて銀行家の態度は立派なものである。然るに吾國では、中には立派な銀行家もあるが、私を以て遠慮なく批評せしむれば、吾國の財界に於て指導者の地位に立つべき銀行家の態度は、甚だ遺憾の點が多い。此點に於ては、昔の兩替屋の方が遙かに立派な態度を採つて居つたと言ふ事が出来る。幕府時代の金融は、江戸は主として金建に依り、大阪は主として銀建になつて居つた、め、此間常に爲替相場の變動があり、殊に元録前後の頃より、幕府が財政の不足を

お定期相場

補ふ爲め、貨幣の質を段々悪くして、所謂貨幣改鑄益金に依つて、歳出入の均衡を保つ極めて不都合な財政策を採つたため、金銀爲替相場の變動一層烈しく、幕府は止むを得ず御定期相場なるものを定め、大阪兩替屋に命じ、御定期相場以上に銀錢を賣買し、或は銀錢を買占めることを禁じたるも、何等効果なく、銀錢相場益々騰貴するに依り、幕府は何にして此の難局を救ふべきかに關し、兩替屋の説を徵せんとして、寶永三年正月、大阪十人兩替を奉行所に招きて、諮問したことがある。そのとき彼等の答へたところは、如何にも立派である。其の答を見るに、

十人兩替の見識

『上方西國筋は古來銀遣の地にして金子を知らず、先年銀錢相場を定められ金銀滞りなく通用すべしと命ぜられし後も、西國筋其の他諸國

共商賣代銀に銀子を望み、従つて上方筋並に當地は金子多く銀子拂底に見ゆ、御定期相場發表以後當地は金銀取引なれば兩替屋に金のみ集まりて銀は少なし、必らずしも諸人銀を貯藏すると言ふにあらず、金遣ひなるが故銀子の取遣り少なく銀子拂底となれるなるべし、之れに處するの策は唯事を自然の勢に一任して、お定期相場を廢止するにあり、御定期相場を廢止し、商賣を自由にせば、金銀並び行はるべく、或は銀價が一時騰貴する事あるべきも、銀價高ければ國中の銀は其價高き地方に集まり來るべきを以て、結局銀價も下落し、爲替も亦自由なるべし』

とあり、役人の干渉を排して居る。今日の時代に於て銀行家が大臣の諮問に答へる時、十人兩替商の如き態度を取り得るもの果して幾人あるで

今の銀行家顔色ありや

あらうか。

幕府時代の如き壓制政治の下にあり、猶正論を吐ける吾々の祖先の兩替商に對し、現在吾國の銀行業者は省みて恥づる所なきか。財界を指導する地位にある銀行家の態度の卑屈なる爲め、其及ぼす悪影響は獨り金融業者の間のみでなく、吾が財界全般の獨立心を失はしむること、もなるから、私は特に吾が財界の獨立の爲め、銀行家の反省を促がす所以である。若し大正六、七年頃吾國銀行家が、當時の放漫なる財政策に對し、正々堂々の態度を取りたらば、大正九年の反動は起らず、吾が財界を今日の憫より救ふことも出來たのである。然るに當時貸付利子は預金利子に殆んど均しくなつたやうな、不自然なる財政策を取りたる大藏大臣の前に正論も主張する勇氣なく、自らも營業上の不利を蒙り、財界を

改むべき時機

不都合なる中央銀行制度

ラモント氏の演説

反動の悲境に沈淪せしめたるが如き、吾國銀行家の態度は、永い間の因習とはいへ、最早改むべき時機ではないか。

然しながら、更に一步深く考ふれば、銀行家の今日の如くなりたるは強ち銀行家の卑屈心からのみではない。吾國の中央銀行制度が、西洋と違つて大藏大臣の自由になる仕組であるから、預金を扱ふ銀行家としては取付の場合に對する心配もあり、立派な行動が取れぬからであつて、吾々國民は銀行家を非難するよりも、此の不都合なる中央銀行制度を改めねばならぬ。

先年紐育に於ける米國銀行家大會に於て、モルガン商會支配人ラモント氏は、吾々銀行家も自ら進んで政治に關係せねばならぬ。銀行家が政治を等閑に付して居るは、自己の利害から考へても大なる誤である。唯

從來銀行家は政治に關係せぬを良しとして居つたに過ぎない。吾々は最早從來の態度を改めねばならぬと演説して居る。私は吾國の銀行家も、一日も早く此域に進まんことを望んで止まないものである。而して國民も議會を通じて大藏大臣が金融の中樞機關たる中央銀行、其他金融の權を掌握する制度を改め、銀行家をして獨立の態度を採り得る様にせねばならぬ。

普選と新政黨

今や選舉權が擴張され、男子二十五歳に達すれば皆國の政治に參與することが出来る様になつたに就ては、民衆の利益を代表せんとする政黨が出現するは當然の成行で、英國に労働黨ある所以である。然しながら私は其政黨に無産の二字を冠したり、又は階級意識を挑發するような手段方法を採るは、寧ろ立憲政治の下にある國民の自尊心を傷けるもので、

自尊心の發露

之に依つて自己の力を信ぜずして階級的反感を利用して其の大を爲さんとする、一種の弱い、自らを卑ふする心より起つたものではないかと思ふ。無産階級の人々が有産階級に向つて不法の行あれば非難を加へ、又國の政治が公平ならざる時は之を正さんとするは甚だ良いことで、立憲政治は之を正す爲め參政權が一般に與へられたものである。然るに苟くも階級意識を挑發するような方法に出づるは、立憲政治の根本意義に反するものである。

政策の争ひか階級の争ひか
英國の政黨の分野

立憲政治は主義政策の争ひにして階級の争ひではない。これを理解する國民にして、初めて其の全きを得るものである。英國の労働黨中にも、貴族富豪があり、保守黨中にも労働者が加はつて居る。自由黨に至つては、富豪も、中産階級も、労働者も、入り混つて居る。保守黨の首領で、現

保守党内閣の首相ポールドウィン氏の四男は、労働黨首領マクドナルド氏の主義政見を是として、先頃の選挙にも労働黨公認候補者として選挙場に立つた。又先頃死去した有名なる英國保守黨の大政治家ロード、カーゾン卿の令嬢にして、オスワルド・モスレー氏夫人たるレデー、シンシア・モスレーは最近保守黨を脱して労働黨に入黨し、先頃の補缺選挙に際し、労働黨の公認候補者として選挙を争つた。又貴族で労働黨幹部の爲め廣大なる別荘を寄附した人もある。最近に鐘淵紡績會社で英國より雇入れた二人の職工は、一人は保守黨で、一人は自由黨に籍を置いて居ると語つた。

斯の如く英國に於ては、政黨の争は主義政策の争に重きを置いて、之を階級の争とせんとするものもないでもないが、労働黨と雖もかゝる過

精神的負傷者

激主義を有するものは排斥し去つた。勿論吾國に於ける無産政黨の發起者は、政策に重きを置くものであつて、其の名義の如きは、一日も其の發達を早からしめんとする意に過ぎないと思ふが、假令方便としても、私は之を精神的に非なりとする。子を思ふ親は一日も早く子供の成長せんことを望む。其情如何に切なるも、子供は急に大きくなるものでない。民衆の利益を代表せんとする政黨も、急いだからとて急に大きくなるものでない。強いてこれが成長を急ぎ、階級的感情を利用せんとするが如き事あらば、已に第一歩に於て精神的の負傷者である。一度精神的負傷者とならば、其大を爲さんとする目的を達しても、何等國民の利益幸福を招來し得ぬことは、既成政黨が精神的に傷いて、さて大を爲して政權を握つても、時としては官僚政治よりも其の施す政治が國民の爲め

「心に高下あり」

にならぬことがあるに依りても明らかではないか。

昔の諺に、人に高下なく、心に高下あり、と言ふことがある。富は有産無産で區別は付いても、心は有産無産で區別は出来ない。有産者の中にも、心の貧しきものあり、無産者の中にも心の富めるものあると同様に、無産者の中にも心の荒んだものあり、有産者の中にも心の優れたるものもある。世の中を財産のみに依つて有産無産と言ふが如き無造作な區別をして、階級の争を助長せんとするが如き企は、自尊心あるもの爲さざることである。故に私は切に吾が國家將來の爲め、新に政黨を組織せんとする人々の茲に思を致さんことを望むものである。

吾々は更らに他の大なる意味よりするも、自尊心を奨め、卑屈心を避け、精神的に勇敢なる國民たらねばならぬ。彼の獨逸の文豪ヘルテスは

善玉・悪玉

世の中に悪黨の數は極めて尠なく、善人の數が非常に多い、然るに兎角悪人の跋扈するは、悪黨は押しが強いのに、善人は引込思案で、之を叩付ける勇氣が無いからである、予は善人が悪黨に一撃を加ふるを見る毎に愉快を禁じ得ない、と言つて居るが、眞に此の言の通りである。彼の有名なる英國の歴史家であり政治家たりし故ブライス子爵は、エール大學に於ける講演中に、

ブライス子爵の熱辯

『良國民の主たる義務は、國家が怒りを求めた時必らず怒り、且つ怒るを行に表はし、苟くも悪國民なれば、朝野を問はず之を攻撃し、其の不正を發き、其の職務を免じ、其の醜行に烙印して、再び重要な職務に就く能はざらしむる事である。』

と言つて、正義に對する國民勇猛心の必要を唱へられて居る。又ブライ

ス子爵は同じ講演中に、

『國民最高最難の義務は、自分が少數派に屬した時、所信を枉げず勇敢に戦ふことである、「悪を行ふ衆人」に敢然反對するは、眞の徳の反響であり、又勇氣の試験である。』

と言はれて居る。

右の如き精神は立憲政治には最も必要のものであつて、卑屈心の強い國民の現はし得ないところである。

吾國に於て、選舉の時、何時も政府黨が勝つのは、國民の卑屈心が然らしむるものであると言つてよい。卑屈心なるものは、實業の精神より見て、最も忌むべきものの一つである。

何時も政府黨が勝つのは

「悪を行ふ衆人」

八 品 性

品性の意義 …… 固有の美風 …… 各國人の品性試験場 …… スマイルスの「品性論」 …… 半可通の新しがり …… 職工も紳士 …… 未開人の文明中毒 …… 折角の味方を失ふ …… 富よりも品性 …… 攘夷思想と愛國心 …… 獨逸人の品性 …… 品性の養成所 …… 最初の微笑の輝く時 …… 半分は垢 …… 野次 …… 聴衆は裁判官 …… 衣川の美談 …… 品性は人間の至寶 …… ルーテル曰く

品性に就ては其の定義多かるべし。私の茲に述べんとするは、其の人の行ひが其の接する人々に好感を與へ、社會に向つて精神的感化を與へるものに就てである。

吾が國民は古來品性に於ては、最も能く教養せられたる國民にして、

品性の意義

固有の美風

品性を代表する廉潔、誠實、節義、慈愛等の性質に就ては、歴史や、言行録の中に誇るに足るべき幾多の例證がある。然るに近時吾國が西洋文明を輸入するに當り、權利の思想のみを輸入するに汲々として、義務の觀念に就ては之を受入るゝことを怠つた爲め、吾國固有の美風を甚しく傷けた。此度の大戦争以來一層其の傾向が甚しい。

私は大正八年十月米國華府に開會された國際労働會議へ臨んだ時、品性なるものゝ如何に尊ぶべきものなるかを痛感した。當時私は英國労働代表の人々と親しく食事を共にして、其の品性の如何にも高いのに敬服した。

各國人の品性試験場

該労働會議は世界各國人種の品性の試験場とも言ふべきもので、品性は世界に於ける最大原動力の一なりと言ふスマイルズ博士の言は、如何

スマイルズの「品性論」

半可通の新しがり

にも其通りであるが、そこに現はれた各國人の品性を見較べて、吾國民は品性の上にも大に修養を積む必要を深く感じた。

私は、私の従事する鐘淵紡績株式會社の従業員には、スマイルズ博士の『品性論』を與へ、常に此の書物を友人として携へ、品性を磨く事を心得る様奨勵して居る。大正七、八年頃、日本に於ける思想が最も動搖し、それが西洋より來つた新思想であるとして、一般に西洋に於ける思想の悪化が、日本へ傳來したものと深く恐れて居つたものであるが、當時私は吾國に來つた新思想なるものは、權利の方面のみ誤り傳へられて、義務の方面は輸入されて居らないので、本家本元の新思想なるものは吾國に舶來せるものとは必らず相違すると考へ、私の左右のものは危ぶんだに拘らず、私は會社の従業員を英國に送り、英國の工場を見せる

職工も紳士

ことにして、毎年繰返し相當の人数を送つたところが、私の豫想せる通り、彼地の實際を見て来た會社の従業員は、全く悟りを開いた人の如く、英國の職工などの品性が高く、職工も紳士として自ら其行を注意するのみならず、日々の職務に對する義務の觀念に至つては、到底吾々の及ぶところにあらずとして、深き感化を受け、歸來其事をしみじみと大勢の僚友や配下の工手に話するため、間接に一般従業員の品性の上に良好なる結果を來した。

未開人の文明中毒

元來未開國の人種が、文明國人と接觸して、其國が亡びまた衰へた例は幾らもある。安南や、ビルマ、ペルシヤの如き、其著しき例である。これ未開國人は、文明國に於ける自分等の都合のよき勝手な部分のみを受入れ、自分等にとり苦痛とするところの義務の觀念は、之を受入れる

折角の味方を失ふ

ここを拒んだが爲めである。此點に於て、吾が國民も大に顧みるところがあらねばならぬ。先日私が或人より聞いた話に、其人は米國で高等教育を受けた人であるが、今度普通選舉が行はれて、無産政黨が出来ると言ふ事であるから、場合によつては之に参加せんかと考へ、兎に角一應無産政黨に這入る人々の態度を親しく見て之を決せんと思ひ、或る労働者の演說會を傍聴したるに、其の場内の空氣の全く豫期に反したるを目撃し、外國の労働者の態度を見て、日本の労働者も同様ならんと思つてゐたるに、誠に意外なりとて、遂に之に参加することを見合はせたりとの事である。

私は、吾國労働運動者諸君の純なる心については、何等の疑を持たぬものであるが、私が此等諸君に忠告したいのは、其純なる心も、優雅な

る動作を以てせざれば、折角諸君の味方たらんとする人も、之を失ふこととなり、社會の同情が集まらなければ、結局其の主張も世に容れられぬこととなるから、諸君は品性の如何に人生に尊きものであるかを、深く鑑みる様にせられたいものである。

斯くの如く、品性は人生に於て最も大切なるものであつて、品性高ければ人に敬愛せられ、品性高き人には至るところ門戸が開放せられ、品性低き人は何人よりも排斥せらる。如何に富んでも品性に注意しなければ、其の富は却つて一層他人より嫌はれる原因となつて、其の立場を狭くし、貧しき人と雖も、品性が高ければ、富みて品性の伴はぬ人よりも遙かに重んぜらる。又富の力よりも、品性の及ぼす感化が一層社會の圓滿なる向上發達に貢献するものである。

富よりも品性

攘夷思想と愛國心

品性は吾等一國內に於ける同胞の間に於て必要であるのみならず、品性を重んずる國民は、外國人に對しても常に尊敬と同情とを以て之に對せねばならぬ。一國人の心が驕慢にして他國人を輕蔑する時は、是が爲め國家の安危にも關するが如き不良なる結果を來すものである。由來吾が國民は愛國心の強い國民であるが、此心が今日尙鎖國攘夷の時代に於けるが如き思想として残つて居つて、時として外國人に對し不快の感と與へる振舞をするところがある。此等は品性を重んずる國民として、最も改めねばならぬ點である。

獨逸人の品性

獨逸人は先頃迄世界の一大強國であつた。其の海陸軍は非常に整頓し科學の知識は世界無比であり、國民は勤勉にして、英國すらも世界の貿易の上に獨逸人に競争上次第に一步を譲づるの觀があつた。然るに獨逸

品性の養成所

人の品性は、極めて粗豪驕慢であつて、獨逸の學者の著書の中にも、獨逸人は世界征服の爲め生れ來たものなどと唱へ、一層國民の品性を亂し、又ビスマークの如き獨逸中興の大政治家も、此點に於て國民を誠めざりしのみならず、自ら品性を輕んじ、或る新聞記者がビスマークに向ひ、若し獨逸の南に英人が上陸して攻め來らんには貴君はどうなさるかとの問に對し、巡查を送り縛らせるのみと答へたと言ふ話がある。獨逸が世界の大戰争を惹起し、終に大敗北の憂目を見たるは、全く獨逸國民の品性の低きが爲であつたと言ふ事が出来る。吾が國民の如き、前車の覆へるを見て、大いに戒めるところがなければならぬ。

品性の養成所は家庭である。人の品性は家庭に於て良くも悪くも、陶冶せらるるものであるから、家庭に於ける子供の養育は最も注意を拂

最初の微笑の輝く時

はねばならぬ。子供は其の生まるる瞬間より、早く既に家庭の影響を受けるものである。四歳の子供の母親、嘗て僧侶に向ひ、問ふに其子の教育の時期を以てせるところ、僧侶は教へて、何とて今日迄等閑に附し置きたるや、御身は既に過ぐる四年を空しく失はれたるものである、小兒の面上に最初の微笑の輝く時より、御身が教育の機會は生ぜるものであらうと言はれたと言ふ事が、スマイルスの品性論中に書いてあるが、誠に味ふべき言である。家庭に於ける夫の責任も重大であるが、妻の責任は一層重大である。

古い昔の話に、家庭に於て口喧かましき女房を戒むる爲め、近く江戸より歸つた主人が、『自分が原宿に泊つて出立の際に、「デモ富士山は大きいものじや」と言ふと、宿の女中は「いえ、いえ、あの様に大きく見

えても、半分は雪で御座います」と答へた、兎角女子は斯くやさしくありたきものだ、お前のやうに何にかと仰山な口敷を言ふと、女らしくなうて聞えが悪るい、以來はちと、たしなんだがよからう』と言つたところ、「それ位の事はわたしじやとて知つて居ます」と争つて居る所へ、懇意な人が訪ねて来て、「これは八兵衛さん、此間江戸から御歸りと承はつたが、御機嫌よろしく御めでたう御座います、定めて長の道中、御疲れもあらうかと案じましたのに、御見かけ申せば御肥りで御歸り」と、挨拶したのを、内儀が横合から出しや張つて、「いえ、いえ、あのやうに肥つて見えますが、半分は垢で御座います」と言つたといふ笑話がある。家庭に於ける婦人の態度は、一家に重大なる關係があるから、品性を保たんが爲めには、家庭の平和と充分なる教養が第一に必要である。

半分は垢

野次

日本では政治上の争になると、昔の封建時代の敵味方の様な考へを以て、全く品性を無視する傾向がある。演説會等に於て、反對黨となると、相當な名士でも、彌次つたり、妨害をしたりして居る。先頃英國の演説會に、労働黨の首領マクドナルドと自由黨の首領アスキスと相並んで演説した事がある。其時聴衆の労働黨員よりアスキス氏の演説を彌次つた者があつた。其次に立つたマクドナルド氏は最も痛烈に自黨員に戒諭を加へ、アスキス氏は現代に於ける尊敬すべき名士である、苟くも氏の演説に對し、彌次るが如き不遜の振舞を爲す者は直ちに退席すべしと、辞色最も烈しく、聴衆に向つて大なる感動を與へたと言ふ事であるが、此のアスキス氏を彌次つたと言ふ其の彌次り方も、日本の如き下品なものでなかつたのであるが、それでもマクドナルド氏は之を非難したのであ

聴衆は裁判官

る。英國に於ては、日本に於て行はるるが如き野卑の彌次や、甚しきは演説を妨害するやうな事は殆んど見受けない。元來演説會場に於ける聴衆は、裁判官の心掛がなくてはならぬ。其の前に立つところの辯士は、被告の如き立場にある者である。被告の言ふ所を彌次つたり妨害したりする裁判官は、自己の威嚴を損ずること甚しきものである。此の種の見苦しい振舞も、一度品性を重んずる習慣が國民の間に行はれ、社會的制裁が加はるに至らば、自然慎むやうになるから、吾々は品性の低い行ひをするものは、容赦なく之を排斥せねばならぬ。

衣川之美談

封建時代に於て、武士は敵味方の間にも、禮儀を重んじたもので、源義家が阿部貞任を衣川の關に攻め、貞任を追ふて義家は矢をつがへて今や一矢を放たんとする時、「衣の楯はほころびにけり」と詠じたるに、

「年を経し糸の亂れの苦しさに」と貞任が答へたのを聞き、矢を外して其の追撃は見合はせたと云ふ美談がある。戰國時代すら猶且つ此の優しき情味があることを考へて、今の政黨員も今少しく品性を重んずるやうにしたいものである。

品性は人間の至寶

品性は人間の有する一大至寶であつて、之を得るは貧富の間に區別のあるものではなく、何人と雖も容易に之を得て一生を愉快に暮し得るものである。國家としても品性を重んずる多數の國民より成る國家は、繁榮し、然らざるものは衰亡の運命を免かれぬ。私は最後にかの有名な宗教改革家なるルーテルの言葉を引用して、品性の大切なることを重ねて記し置く。

ルーテル曰く

『一國の繁榮は、其國歲入の多きによるにあらず、防備の堅固なるに

依るにあらず、公共建築物の美なるに依るにあらずして、教化せられ
 たる市民の多数、教育あり、修養あり、品性ある人の多数なるに依る、
 眞正の國利、國力、國威ここにあり。」

九 理 想

理想と空想……空想を追ふ人……貧乏な小空想家のはなし……フランクリン
 の謬見……良き目的と正しき手段……先きの百より今の五十……ユダヤ人……
 ……理想は高尚な道徳心……子孫の利益の爲めに……理想なき國民……發明
 の芽生へ……三十五年前に飛行機を設計……關東震災と今村博士の豫言……
 理想家マクドナルド氏……理想なき政治家……眞に偉大なる國家……精神上
 の富……興國と亡國……國民的信仰が土臺……事大思想の國民……大は益
 々大、小は益々小……憲政は有名無實……政治と理想……實業と理想

理想は空想と違ふ。人は空想に捉はれ易いものであるが、空想を抱い
 て、其人を利益する場合は尠ない。空想には無理がある。空想を追ふ人

理想と空想
 空想を追ふ人

の心は、多くは自らの爲めに他人を犠牲にしたり、又は急激に自己の目的を達せんとして却つて失敗をする場合が多い。また空想を抱く人は、一つの利益や弊害が鋭く見え、之を得又は改めんとするが爲め多くの損失を醸したり、又は幾多のより多くの弊害の生ずることを辨へぬものである。

空想を抱く者は、個人としても成功せぬが、空想を抱く個人より成る國家は、常に動搖を免かれぬ。空想を抱く國民は雷同し易い、自己の行が他人に影響することを考へずして、容易に妄動する國民は、健全性を缺いで居る。或る書物に次のやうな話を書いてある。

「貧乏な或る子供が、小山の頂にある永年雨曝らしになつた小屋に住んで居た。此の小供は一種の空想家で、毎日戸の前に立つて谷を眺め、

貧乏な小空想家の
はなし

谷の向ふに見える夕照に輝いて居る窓のある家に魅せられて居た。かくて彼は自分の貧弱なる家の周囲に對し、甚しき不満足を覺え、ために自ら甚しき不幸を感じるに至り、苦悶の極、臆がて彼は嘆息して、「我家は眞に貧弱なものだ、若し、吾にして彼の金色の窓の家を得たらんには、其の幸福はどんなに大きいであらう」と言つた。或る夕景かの窓の金色が是迄にもなく輝き、何かを招くが如く見えるので、彼は之を見て、忽ち自ら彼の美しき家を訪ねてやらうと決心した。其次の朝彼は夙に起きて出掛けた。道には塵が立ち、日は暑かつたが、少年は足を引ずりながら前進した。谷の向側に達したのは日没頃であつた。小山の頂上から見た美しい家はどうなつたか。彼が日頃眺めて居た金色の樓殿は、屋根の落ちた茅屋、見る影もないものであつて、そ

れは決して黄金でなく普通の硝子で、所々破れさへあつたのである。身體は此時大いに疲れ、咽喉は渴いて居る。少年は失望の極納屋の中へ倒れ伏して涙にむせんでゐた。漸くにして頭を上げて、谷の方を見ると、遙かにヒカ／＼と光るものが見えた。それが即ち小山の頂に立つて居た自分の家である。其夕照に輝く様、恰も燃える黄金の褥のやうであつた。』

空想を抱く青年の中には、時として大勢の爲めなら少數のものは犠牲にしてもよいと考へるものがあるが、誤つた考へである。此ことについて、かの有名なるベンジャミン・フランクリンの父が、フランクリンを戒めたことがある。フランクリンは後には偉い歴史的人となつたが、子供の時は可なり腕白で、其家はボストン附近で、毎日他の子供と共に

見
フランクリンの譚

池で魚を釣つて居たが、何時も腰から下は泥濘なる池の水に浸さねばならぬので、其の不便を免かれない爲めに、丁度附近に建築されんとする家に用ゐる爲め、多數の石が置いてあつたのを幸ひ、他の子供と共に、其石で池の中に波止場を造り、自分等の便利ばかりでなく、船を繋ぐ人にも便利であるから、大勢の人の爲めに一人の利益を犠牲にしたまでの事故、寧ろ良い事をしたものと思つて居たところ、翌日其の大工の親分が、之を知り、直ぐ其の筋へ訴へ出でたため、警察に拘引され、取調を受けたが、幸ひ其の家主が穩和な人で、願下げをしてくれ、赦されて家に歸つた。其時彼の父はフランクリンを戒めて、「一人の不利が大勢の利益になるから、寧ろ善き行爲と思ふお前の考へは間違つて居る、お前の行爲は大勢の爲めに一人の利益を犠牲にするだけでない、社會に對する

良き目的と止しき手段

道徳上の罪を犯すものであつて良くない、總て何事も正義に基いて爲さねばならぬ事を生涯忘れてはならぬ、悪しき手段に依つて善き目的を達せられると思ふは誤りである、良き目的は正しい手段に依りてのみ達せられるものである」と言つた。

先きの百より今の五十

以上説いた如く、空想は人の一生を誤るものであるから、之に驅られぬやう、堅實に歩を進めて歩かねばならぬが、それと同時に、人は餘り多く現實にのみ捉はれてはならぬ。昔より、先きの百より今の五十と言ふ言葉があるが、かう言ふ風に吾々が唯現在ののみを考へ、目の前に現はれるものののみを見て、遠き將來を考へぬ様では、個人としても其の人格が低く、國家として他國の尊敬を受くる事は出来ない。他國民の尊敬するところの國民は、理想を尊ぶ國民である。理想とは唯現在のみに捉

ユダヤ人

理想は高尚な道徳心

はずして、將來の事を考へ、其の實現せらるるときは、物質的或は精神的に、獨り自らのみならず、社會全體の利益幸福を齎すものである。故に此心が弱ければ、其の國民は洵に憐むべき卑しき國民と成下がらねばならぬ。彼のユダヤ人は現在の金儲のみに没頭して、國家を形成する費用すらもこれを負擔することを惜んで、何れの國でも構まはず、唯自分等の金儲けに都合よささうな所へ轉々移住して居る。國家を形成する事は、一家を爲すと同様に、相互に其の國家を形成する義務を負擔するものであるから、若しユダヤ人の如く、世界總ての人々が自分の金儲だけに力を入れて、相互の爲めに盡す事をしなければ、此の世界は今日の如く進歩發達しないのは明らかである。

理想なるものは、吾々が時としては現在を犠牲にして、往々將來の爲

め益するところの一種高尚なる道徳心であつて、個人として此の道徳心があれば、社會國家を益し、一國に於て理想を重んずるものが多ければ多い程、其の國民の間に協調の精神が漲り、國家は益々繁榮に赴くものである。

子孫の利益の爲めに

先頃、米國の有名なる絹布業者、チニー氏が、日本及び支那の蠶絲業視察に來られた事がある。此のチニー氏が歸國して、紐育市に於て氏に對する慰勞の宴會が催された時、チニー氏は立ちて演説して、「支那の蠶絲業は將來極めて有望である、若し吾々米國民にして、此際幾分でも寄附金を集め、支那の蠶絲業改善の研究獎勵の費用として寄附するならば、吾々の子孫の時代に於て、大なる利益となつて歸り來るべし」と述べたところ、晚餐終つて續々寄附を申出でる者があり、其の金額立どこ

ろに四百萬圓に達したと言ふ事である。

此の話に依つて、吾々は米國實業家の理想の高きに感服せざるを得ない。吾國に於て、子孫の爲めに利益が歸り來るとして寄附をしてくれと言つて、實業家を如何に説得しても恐らく一文の寄附も集まるまい。是れ即ち米國の實業家は理想を有して將來の爲めを考へ、吾國實業家は理想を有しないで、現在の利得のみを考へ、未來の爲め何等考へぬからである。

理想なき國民

理想なき國民は、其の國民中に如何に良い發明を爲す者があつても、又如何に將來國家の爲め有益なる理想を高唱する者があつても、之に耳を籍さない。理想なき國民は、自己の眼前に大きくなつて現はれたもののみを見て謳歌し、又は之を捉へんとする。如何なる發明でも、最初の

發明の芽生へ

發明は恰かも生れた赤子の如きもので、これを育てる者があつて初めて一人前の人間となる如く、發明も完成さるる前に幾多の温き援助を要するものである。發明に限らず、商賣でも、政治でも、其の他何事に拘はらず、理想なるものは、初めは芽生への如きものである。赤子の如き發明は之を育てず、芽生へたる理想は之を輕んじて培養せざる國民の間には、國家を益する發明も理想も完全に育たずして踏みにじられて仕舞ふ。今日吾が國民は外國より飛行機を輸入して、之に向つて驚異感嘆の眼を見張つて居る。然るに今より三十五年前、世界に於て飛行機が未だ工夫されない時に、大阪市に於て、二宮忠人君が、殆んど今日に近い飛行機の設計を作つて、世間に示して居る。然るに世間は全く此の一大發明に向つて其の完成に協力をしなかつたため、折角の發明も生れたのみで成

三十五年前に飛行機を設計

長しなかつた。

伊太利人は此點に於て吾國民に能く似て居る。無線電信の發明家マルコニーは伊太利人であつたが、其の發明は英國に於て完成された。

關東震災と今村博士の豫言

關東震災が起つて吾が國民は驚倒したが、是れも己に帝國大學の今村博士は、明治三十七八年頃に、盛んにこれを豫言して世人に警戒を與へた。然るに吾國民はこれを馬耳東風に附せるのみならず、當時人心を動搖せしむるものとして、苦情まで言ふものがあつて、文部省より新聞紙上に之を掲載することを差控へんことを求めたとの事である。若し吾國民が明治三十七八年頃より、何れ遠からず關東に震災の起るこの博士の意見に聞き、官民共に其の用意を爲し居つたならば、關東の震災の損害は蓋し十分の一以下に止めることは何んでもなかつたのであらう。關東

震災の損害は、震災其者より來つたものは極めて僅かで、震災に伴ふ火災が、大部分の原因をなして居るとせば、震災は避け得られぬとしてもそれに伴ふ火災は豫め用意して居たらば、大部分これを防止し得たであらう。

元來吾國は地震國であつて、過去に徴しても地震に對しては相當警戒を要することであるから、眼前の費用は多少かかつて、人為で避けらるる丈の地震の際に於ける防火の手配は忽がせにせぬやうにせねばならぬ。

これは政治上の話であるが、英國の労働黨の首領で、前内閣を組織したるマクドナルド氏は、平和論者であつた。それが爲め、かの世界大戦争の時に於ても、其の主義を守り、英國が戦争に参加することに反對し、

理想家マクドナルド氏

ロイド・ジョージ氏の下に各政黨首領の聯立内閣が組織せられ、労働黨の僚友も入閣したるに拘はらず、氏は度々ロイド・ジョージ氏より入閣を勧誘されても、之に應じなかつた。故に其の當時の愛國心の高潮に達したるロンドン市民は、マクドナルド氏に向つて、各所に於て非難攻撃の聲を放つて、選挙にも二回落選した。それでもマ氏は敢然と其の主義を守つた。戦終つて英國国民も、戦後の困難容易ならざるに際會し、國民の聲望はロイド・ジョージ氏よりマ氏に移り、遂に労働黨も第一黨の地位を占め、内閣を組織するに至つたのも、マ氏の理想に依つて動かざりし首領的勇氣の爲めであると言つてよい。

獨りマ氏に限らず、西洋の政治家は、理想を尙び、理想に依つて動き、常に理想を高唱し、國民も喜んで之を聞く。吾國政治家に理想を有する

理想なき政治家

者は殆んどない。其の演説を讀んでも、國民に向つて理想を説き、國民の心を引付けるやうな何者をも見出さない。これ英國民は理想を重んじ理想を好むも、吾國民が理想の如何に尙ぶべきかを思はざるが爲めである。吾々は常に吾國の富み榮えんことを焦慮してゐる。國を富ますといふことは、國民福祉のため急務である。然るに世の中の人々は、往々餘りにこの富み榮えることを數字的に測定し過ぎる傾向がある。假りに吾國の輸出高が今日より急に數倍増加し、又は俄然大金礦が発見されて、無比の金保有國となつたとしても、それで吾國の偉大さが増したとは言へまい。されば、國が富み榮えるといふことには、この數字的資産以外に何ものかがあるのである。其は高尚なる思想と高遠なる理想である。この二つの要素が加はつて、初めて眞に富み榮える偉大なる國家を形成す

眞に偉大なる國家

ることが出来るのである。

國家を眞の富み榮える域に導くには、産業や通商の力ばかりでなく、また詩人文人の偉大な思想や理想が與かつてゐる。歐洲政治の腐敗を廓清して、佛國を今日あらしめた者は、ルーソーであり、十九世紀英國及び歐洲の政治を民衆化した導火線となつたのは、詩人シエレーである。またリーヴィングストンの物語や、スコットの名小説が、尠らず精神上の富を西洋の國民に與へて居る。吾國に於ても、近松が國民を精神的に富ましたことは甚だ大である。古諺に「詩歌を忘れる國民は、やがて忘れられてしまふ國民である」と言つてある。

精神上の富

興國と亡國

彼の羅馬大帝國は、全く初期羅馬人の堅忍なる大精神に依つて建設されたものである。然るに一朝北方強族の爲めに征服されたのは羅馬國民

國民的信仰が土臺

の思想が物質的に傾き、この大精神を忘れたからである。更にギリシア、ペルシア、ビザンチン、スペイン等、諸帝國の盛衰の跡を見れば、思ひ半に過ぎるものがある。隣國支那の如きも、其の國內に於ける發達の歴史は能く此事を物語つて居る。かくの如く、一國の榮枯盛衰は、決して地脈の上に存在するものでなくて、實に其の國民の精神と氣力に存在するものであり、物質上のものでなく、純なる國民的信仰の上に存在するものであることを忘れてはならぬ。

政治の如きも、吾國が憲法政治の國となつて、尙不良の状態にあるのは、其の原因極めて明らかである。立憲政治は國民の政治であつて、國民が投票權に依つて各政黨の主義政策を吟味して、是なりと信ずる政黨の代議士を議會に送り、政治を行ふものが立憲政治である。然るに吾が

事大思想の國民

大は益々大、小は益々小

國民は、事大思想に捉はれて、自分等の投票權に依つて、或時は甲政黨を多數たらしめ、或時は乙政黨を多數たらしめる力が自分等の掌中にあることを了解せぬ。それが爲め、兎角眼前に現はれて居る大政黨の爲すところが井なりと思つても、それに盲従し、偶々眞面目なる政界革新の主張を提げて立つものがあつても、之を顧みない。先頃革新俱樂部の大多數が政友會に走つたのも、其の理想に殉ずる力の弱いのは申すまでもないが、結局は國民が革新俱樂部の理想を顧みなかつたから茲に至つたものである。理想の精神なき國民は、他人の意見が自己の意見と一致しても、直ちにこれに賛成する勇氣がない。之に反して他人の力が大なるを見るや直ちに盲従する。故に大なるものはいかに悪いことをしても益々大となり、小なるものは如何に正しくとも常に小である。是れ吾が國民

の間には、今尙武家に壓迫された當時の精神が残つて居るからであつて、立憲政治となつて自分等の力に依つて、政黨などは自己の家來同様に投票權に依つて生殺與奪の權を行ふ事が出来る世の中となつても、尙是を悟らぬのである。

憲政は有名無實

かくの如く、吾が國民が理想なく常に眼前の大なるものだけに屈從せんとする間は、立憲政治は名あつて實なきものとなる。

今回選舉權が大に擴張されたが、其の吾が國政に及ぼす結果如何は、新に加はる有權者に、果して理想を尙ぶ精神ありや、立憲政治の下にありて自己を信する力ありや、大政黨と雖も約束を守らず、主義主張を重んぜざるものに對して、一票の威力を示す勇氣と精神ありや否や、に依つて、決せらるるものであつて、政治に對する國民の理想の有無は、何

政治と理想

れ近く試験せられるのである。

故ルーズベルト大統領は、吾々は、米國を何人にも住みやすき愉快なる國とせざれば、此國に住む價値がないと言つて居る。而して政治は國民全體の利益幸福に對して、最も大切である。現在の國民のみならず、將來の國民に對しても、重大なる影響あるものであるから、吾々現代國民は政治に對する理想を高め、吾國の政治をして、理想の政治たらしめねばならぬ。

實業と理想

理想の必要は、單に政治のみでない。實業精神の中に於ても最も大切なものであつて、實業に理想は無用であるといふが如き考へは、根本的に改めねばならぬ。

一〇 研究の必要

東洋人の雷同性…… 禪問答と落着き…… 火事は自宅…… 舶來思想の丸呑みは危険…… フキリツピンの馬…… 芝居小屋と會館…… 鐘紡の糸に苦情…… 染料問題…… 國の費用と物の値段…… 營業稅…… 地租…… 織物稅…… 酒造稅…… 各種の關稅…… 月收百二十五圓の家計を立てるものが一ケ年に負擔する國費の總額…… 月收五十圓の人は…… 國費節減は共同の利益…… 金持をいぢめてみても…… 政治と經濟の因果關係…… 「疑」は進歩の基…… 花は何故紅か…… 學生と博士…… 博士の訓戒

由來、東洋人種は雷同性が強いと言はれて居る。雷同性の強いと言ふことは、研究心が弱いからである。禪宗の門に入つたものは、落着きが

東洋人の雷同性
禪問答と落着き

火事は自宅

あると言ふのは、禪宗には問答と言つて、一種の研究を闘はす結果である。笑話に、昔し神田に火事があつた時、神田ツ子は氣が早いと言はれて居るが、火事だと言ふ聲を聞いて飛出して、二三丁行つても火の煙が見えぬから、歸つて見たら自分の家が火元であつた、と言ふのがある。一面から見れば勇み肌の面白い所もあるが、何事も研究しないで、直ちに雷同したり、又は無造作に事を行ふことは、此以上何事にも不利を來たすことはない。

戰時中吾國へ輸入せられた新思想の中にも、随分過激なものがあつて、吾國の傳統的精神と全然相容れぬものもある。然るに一部の人士は、之を吾國に輸入し、環境の相違を無視して、之を宣傳し普及せんとするものがあるに至つた。然しながら、これなども吾々は能く研究して見ねば

舶來思想の丸呑み
は危険

ならぬ。假りに百歩を譲り此の新思想が良いものとしても、之を吾國に行ふ事が、吾が國民の利益幸福であるや否や、十分に咀嚼研究をする必要がある。

フキリツピンの馬

アメリカ政府がフキリツピンを領有し、フキリツピン馬の矮小なるを改良せんとして、アラビヤ馬を輸入して交尾せしめたところ、其の前部が小さくて尻の無暗に大きい馬が生れた。そこで濠洲から牡馬を取寄せて改良を試みたが合度(あはだ)は頭の大きい體の小さい片輪(かたわ)の馬が生れて、全く失敗した。其の後悟つて、支那馬を以てフキリツピン馬の改良を行つたら、非常な好結果を得たと言ふ話がある。思想の如きも、これを或所に於て能く行はれて居るからと言つて、他の所へ輸入しても必らずしも良好の結果は來さぬ。況んや新思想の中には、一つの空想に止まつて、何

れの地に於ても之を行ふて好結果を得ざるが如きものさへあるのであるから、吾々は充分研究して迂濶(うゑつ)に之を取入れてはならぬ。

芝居小屋と會館

自分が近頃各所で演説して實地に研究したところでは、演説に最も適した建物は日本の芝居小屋であつて、各方面に近頃建設された會館には不適當なものが多い。中には無理に天井を高くしたり、演壇を法外に高くして、演説者にとつても聴衆にとつても、極めて不愉快な感を抱かせるものが多い。自分は建築の知識はないが、察するに近頃の日本の會館は、西洋の寺院の如き崇嚴(そうげん)を主としたものを、普通の會館に應用した誤りではあるまいか。會館も、研究して見れば、西洋に倣ふよりも寧ろ吾國古來の芝居小屋に範を取るがよきはないか、専門家は研究すべき値打があると思ふ。

鐘紡の糸に苦情

商工業の上に於ても、往々能く研究せずに、間違つた事を何時迄も行つたり、良い事を中途にして早く見棄てるやうな事がある。私が初めて鐘淵紡績會社の兵庫工場より糸を賣出した時に、大阪の綿糸問屋より、鐘紡の糸は瘠せて居つて良くないと言ふ苦情を聞いた。又それが爲め値段が安かつた。此の苦情に對し、糸を太く見せる事は容易のことであつた。然しながら私は研究の結果次の事實を知つた。當時吾國の綿糸なるものは、最初手車にて紡がれたものが、初めて機械にて紡出される事になつたのであるから、自然と一般の習慣が綿糸なるものは、ぼやけて太く見えるものと思つて居たのである。是れは手車では充分に綿の纖維が撚込めぬから、毛羽立ちて太く見えるので、それで織つた木綿はぼこぼこしたものだと思つて居つたのである。之れに對し、紡績會社より供給す

る糸も同様に見えなければ、受けが悪かつたのである。然るに本當の綿糸なるものは、毛羽立たず、總て能く撚込まれたものでなければならぬ。鐘紡の賣出した糸は本當の綿糸であつたが、此の長い間の習慣に反したる爲め、苦情が起つたのである。そこで私は、此の研究の結果を全國の織元に發表し、改良されたる綿糸を使用することが製織上有利なる點を説いて、二、三年を費し、漸く一般に此事が認められ、其間に失はれたところは後鐘紡の糸の信用となつて恢復し得たのみならず、會社も益し、社會も益した。これも私が研究を怠つて直ちに綿糸問屋の苦情を容れたならば此事が行はれなかつたのである。

又吾國に於て染料を自國にて生産すべしとの議論があるが、此等も大に研究を要することである。獨逸にては、染料工業が非常に發達して居

染料問題

段 國の費用と物の値

つて、赤の色一つに對しても、三十種からの種々の赤色のものがある。然るに吾國では未だ二つより出来ない。吾國製造の染料は品質が獨逸製の如く均一でない。之を綿織物や絹織物を仕上げて輸出するのに獨逸の良染料を使はさぬやうにすれば、自國の産業が小なる利益の爲に大なる利益を失ふこととなる。染料保護の唯一の理由は、戦争の際毒瓦斯や火薬製造に備ふる點にある。然しながら、それには染料業よりはセイルロイドの工場の方が、寧ろ一朝事ある時には、役立つと言ふことである。吾國で研究が足らぬため見當違の保護や獎勵が時々行はれる。

政治の如きも、吾國民中研究するものが少ないため、政治は自分等に利害關係のないもの様に考へて、冷淡に之を眺めて居るものが多い。然しながら、政治ほど吾々の日常生活に關係するものはない。國の費用

營業稅
地租
織物稅
酒造稅

は總て物の値段に入れられて、國民が臺所で大部分負擔して居るものである。然るに吾が國民の大多數は、税金や其他國民の負擔する國の費用は直接之を支拂ふものが損するものであると誤解して居る。營業稅を全廢すると言へば、農村の人々は町の商人が得すると誤解し、地租を輕減すると言へば、町の人は農村の人々が得すると誤解する。營業稅を廢して利得するものは商人ではなく、夫れだけ店の經費が減んぜられて品物を安く賣出し、結局町の一般の消費者よりも町より澤山物を買ふ農村の人々の利得となるものである。地租を輕減すれば夫れ丈け米が安くなつて、農村より米を買ふ町の人々が餘計に利得するのである。織物稅が廢せられて得するものは、織物の工場主でなくて、織物を使ふ人々である。酒の稅は醸造業者の負擔すると誤解して居る人が多いが、これは唯一時

各種の關稅

月收百二十五圓の家計を立てるものが一ケ年に負擔する國費の總額

立替へて置く丈で、結局は酒を飲む人々から取立て、居るのである。今日でも、酒の税は一ケ年二億圓に達する。若しこれを酒屋が拂ふものなら、酒屋は毎年破産しなければならぬ。輸入關稅の多きも、品物を輸入するものが負擔するものと誤解して居る人が多いが、これも一時立替をしただけで、輸入品を使用する人々の負擔となるのである。

かくの如く、國の費用なるものは、直接誰かが拂つても、結局物の値段に入つて國民全體が負擔するのである。此點に就いて、私は試みに一ケ月百二十五圓の收入を以て家計を立てるものが、一ケ年に何程國の費用を負擔するかを綿密に調べて見たところが、一ケ年九十六圓九十九錢六厘に達する。其の詳細を左に掲げて政治と實際生活との如何なる關係にあるやの參考にする。

月收百二十五圓(母親夫婦ト子供八歳四歳二人)ノ生活費ト税金(博愛税金共)負擔額調(大正十四年六月調)

| 費目 | 摘 | 要 | 内税金、博愛税金共負擔額 |
|------|-----------------------|--------|--------------|
| 食料品費 | | 生活費月額 | |
| 白米 | 一日使用量平均一升六合、一升代四十八錢 | 四八、二〇〇 | 二、三三二 |
| 野菜 | 一日使用高平均二十錢 | 三三、〇四〇 | 一、五九四 |
| 魚類 | 隔日使用高六十錢 | 六、〇〇〇 | 一一〇 |
| 肉類 | 月四回使用、一回牛肉又ハ鳥肉百匁(九十錢) | 九、〇〇〇 | 一四四 |
| 漬物 | 深庵一ケ月使用高一貫三百匁、百匁十二錢 | 三、六〇〇 | 〇〇〇 |
| 味噌 | 一日平均使用量五十匁、百匁九錢 | 一、五六〇 | 〇三七 |
| 醬油 | 一ケ月使用量三十升、一升九十錢 | 一、三五〇 | 〇三三 |
| 砂糖 | 一ケ月使用量三斤、一斤三十二錢 | 二、七〇〇 | 〇九九 |
| 嗜好品費 | | 九、一〇〇 | 二八五 |
| | | | 三、四八〇 |

| | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|--------|-------|
| 内 酒 | 毎日晩酌一合ヲ用フ、一升一圓七十錢ノ清酒 | 五、一〇〇 | 一、一三三 |
| 内 煙草 | 敷島ヲ三日ニ二箱使用ス、一箱十五錢 | 三、〇〇〇 | 二、三三四 |
| 内 茶 | 一ヶ月一圓ノ品一斤使用ス | 一、〇〇〇 | 〇三四 |
| 薪炭燈火費 | | 六、二〇〇 | 〇六五 |
| 内 木炭 | 一ヶ月ニ三圓五十錢ノ品一俵ヲ使用ス | 三、五〇〇 | 〇五六 |
| 内 薪 | 一ヶ月使用高 | 一、二〇〇 | 〇〇九 |
| 内 電燈料 | 一ヶ月料金 | 一、五〇〇 | 不明 |
| 内 衣類費 | 毎年單衣一枚ヅ、隔年ニ袷一枚ヅ、調製ス 一ヶ月平均金高 | 七、四〇〇 | 四三五 |
| 内 身廻リ品 | | 五、〇〇〇 | 四三五 |
| 家賃 | 一ヶ月料金 | 二、四〇〇 | 不明 |
| 電車賃 | 一ヶ月四十回乗車切符代 | 三〇、〇〇〇 | 六二四 |
| 所得税及 附加税 雜費、小遣錢 及豫備費 | 月額 | 二、六〇〇 | 四〇〇 |
| | 月額 | 七六 | 七六八 |
| | 月額 | 一八、五〇〇 | 不明 |

合計 月額 一三三、七六
年額 九六、九九六

備考 轉嫁税金トハ生産者、製造者ハ勿論、仲次業者、小賣業者ガ仕拂フ所得税
營業税、酒造税、織物消費税、砂糖消費税及ビ此等ニ對スル府縣市町村ノ
附加税並ニ酒、鹽、煙草ノ專賣收益負擔高等ヲ總テ精細ニ算出シ計上シタ
ルモノデアル。煙草ノ値段モ引上前ノモノニヨル。

月收五十圓の人は

右の計算の中で、七十六錢八厘の所得税は直接取られるから誰でも知
つて居るが、其他の費用は、不知不識に物の値段に入つて取られるから
氣がつかずに居る。私は更に一ヶ月五十圓の暮しをして居る人が、國の
費用を何程負擔するかを調べて見たところ、三十九圓十錢八厘に達す
る。此五十圓の生活をする人は、所得税を納めぬから、自分は一文も國
の費用を負擔して居らぬと誤解して居るものが多いが、左の表を見て仔

細に研究すれば、自分の生活と政治とが、如何に大なる利害關係を有つ
かを知ることが出来やう。

月收五十圓(夫婦ニ七)ノ生活費ト轉嫁税金負擔額調(大正十四年)
三人家族(オノ男兒)

| 費目 | 摘 | 要 | 生活費月額 | 内轉嫁税金負擔額 |
|------|---------------------|---|--------|----------|
| 食料品費 | | | 三、九七〇 | 一、八三九 |
| 白米 | 一日使用量平均一升三合、一升四十八錢 | | 一八、七三〇 | 一、三三三 |
| 野菜 | 一日使用高平均十錢 | | 三、〇〇〇 | 〇六〇 |
| 豆腐類 | 一ヶ月、取交へ二十二丁使用ス | | 一、一〇〇 | 〇三三 |
| 魚類 | 三日ニ一回使用、一回四十五錢 | | 四、五〇〇 | 〇七三 |
| 牛鳥肉 | 月六回使用、一回百匁六十錢ノモノ七十匁 | | 二、五三〇 | 〇三三 |
| 漬物 | 一日ニ百匁十二錢ノ澤庵二十五匁使用 | | 九〇〇 | 〇二六 |
| 味噌 | 隔日ニ百匁九錢ノ品三十匁使用 | | 四一〇 | 〇一一 |

| | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|-----|
| 醬油 | 三日ニ二合使用ス、一升五十錢 | 一、〇〇〇 | 〇六六 |
| 砂糖 | 一ヶ月使用量二斤七分、一斤三十錢 | 八一〇 | 二五七 |
| 嗜好品費 | | 二、四〇〇 | 八一九 |
| 酒 | 毎日晚酌ノ餘裕ナク三日ニ一合ノ割ニ使用ス | 一、五〇〇 | 三七四 |
| 煙草 | 一ヶ月ニ刻煙草はぎ百匁使用ス | 六〇〇 | 四三八 |
| 茶 | 一ヶ月使用高三十錢 | 三〇〇 | 〇〇七 |
| 薪炭燈火費 | | 二、七〇〇 | 〇三八 |
| 木炭 | 一ヶ月二圓俵七分ヲ使用ス | 一、四〇〇 | 〇三三 |
| 薪 | 一ヶ月使用高八十錢 | 八〇〇 | 〇〇六 |
| 電燈料 | 一ヶ月料金五十錢 | 五〇〇 | 不明 |
| 衣類費 | | 三、〇〇〇 | 二〇〇 |
| 内衣類 | 毎年單衣一枚ヅ、ト隔年ニ拾一枚ヅ、新調、 一ヶ月平均額二圓五十錢 | 二、五〇〇 | 二〇〇 |
| 身廻り品 | 同上平均額 | 五〇〇 | 不明 |
| 家賃 | 一ヶ月金額 | 八、五〇〇 | 一七三 |

電車賃 一ヶ月二十回乗車切符代
 月額計 一、三〇〇 二〇〇
 年額計 一五、八七〇 三、三五九
 三九、一〇八

備考 轉嫁税金トハ生産者、製造者ハ勿論、仲次業者、小賣業者ガ仕拂フ所得税、營業税、酒税、醬油税、織物消費税、砂糖消費税、通行税及此等ニ對ヘル府縣市町村ノ附加税並ニ鹽、煙草ノ專賣益金負擔高等ヲ總テ精細ニ算出シ計上シタルモノデアル。煙草ノ値段モ引上前ノモノニヨル。

多くの人々は自分が直接負擔せぬと、自分の損得には關係がないと誤解して居る人があるが、如上の表について、全く其の然らざる事を理解するであらう。

國費節減は共同の利益

扱此事を理解した以上は、國費を節減することは國民全體の利害共同の問題であると言ふことを悟るであらう。これを悟れば、自分が直接負

金持をいぢめてみても

擔せぬからとて、他人に國費を拂はせて、自分丈が甘い事をする事が出来ると思へば、大變な誤りである。今度普通選舉が行はれて、新たに選舉權を有する人々の中には自ら無産者なりと稱する人々が少なからずあるが、若し此等の人々が金持にウンと國費を負擔させて、自分等の爲めになる事をしようと考えたならば、それは誤りであつて、金持に負擔させた國費は、物の値段に入つて来て、結局は自分等の生活を一層苦しめる結果となることを知らねばならぬ。所得税は金持のみが拂ふものではない。月に僅か百圓以上の収入のある人にも課せられてゐる。即ち所得税の多くは、中産階級の人々が負擔する、それがために給料を上げるから、結局店の収入を増加せねばならぬ事となつて、物の値段に轉嫁される。大金持ならば差支ないやうに考へる人があるが、大金持でも、餘り

政治と經濟の因果關係

多く所得税を課せられると、商工業の仕事を廢めて、公債證書や土地等の安全な方面へ資本を移すから、これも結局生産に投ぜられた資本が減少すること、なつて、終には生産の減退を來たし、需要供給の理によつて、物價を高めること、なる。お互は政治經濟の因果關係を能く理解し他人にだけ負擔させて、獨り自分丈甘まい事をする事は出來ぬものと諦らめて、反對にお互の懷より政府に納める金を出來るだけ減少することが、お互の利益幸福であることを理解せねばならぬ。かくの如く社會の問題でも、商工業の問題でも、政治の問題でも、研究の必要を認めるが、吾々日常の仕事の上にも、何事をも妄信せず、一つの疑問として研究することが進歩改善の基である。

一例を擧ぐれば、吾々は花は紅、柳は綠であることは知つて居るが、

「疑」は進歩の基

花は何故紅か

之を當然の事と思つて、何の爲めかと別に不思議とは思はぬが、スフレングルと言ふ人は、子供の時に、何故花は紅で美しいのであるかと疑つた。而して此の疑問を解く爲めに、成人して大植物學者となつて、「花の美しく咲くのは蟲を呼び寄せて蕃殖作用の目的を達するためである」と言ふ前人未開の眞理を發見した。

又火藥の原料たる窒素化合物は、智利硝石から取れるのであるが、今度の歐洲大戰爭中、獨逸が四ケ年間も封鎖されて居たに拘はらず、頑強に戰爭を續け得たと言ふ事につき、世界の化學者は皆不思議に考へて居つたところが、それは獨逸のルンゲ博士が「空中窒素固定法」と言ふ工業的の發明をしたため、智利硝石の輸入を必要としなかつたと言ふ事が解つた。

吾々は神より二つ宛の目と耳とを與へられ、誰も一樣に見たり聞いた
りする事が出来る。吾々は此の見たり聞いたりする事を、更に自分の頭
腦に依つて研究することが必要である。英國の學校の教科書の中に、こ
れに對する教訓が載せてある。

學生と博士

『或朝、一人の學生が、或る有名なる博士を訪ねて、理科の勉強をし
たいので参りましたと言つたところ、博士は直ちに棚の上からアルコ
ール漬の標本の入つた大きな罎を取下げて、此魚の標本を能く見給へ、
後ほど質問するからと言つて、學生にそれを渡して、終日其の標本を
見させた。日が暮れかかつた故に、博士は學生に向つて、本日はこれ
で止めて、又明朝来て勉強するがよいと言つて學生を家へ歸らした。
學生は家に歸つて來ても、魚の標本について自分の見落して居る事が

博士の訓戒

ありはせぬかと、夜通し其事ばかり考へて、夢にまで見た。翌朝、學
生は博士を訪ねると、又魚の標本を出して勉強しなさいと言つて、そ
れより三日間と言ふものは、魚ばかり見詰めて居たが、時が経つに連
れて、前に氣の付かなかつた點がだん／＼解つて來るのであつた。す
ると、博士は最後に訓戒を與へて、適當に目を使ひ注意して周圍のも
のを見て居ると、吾々は書物で決して學ぶ事の出来ない知識を絶えず
求める事が出来る。其上吾々の知識は吾々自身が一生懸命努めた結果
であることを思ふと、是以上の満足はないのだと言つた。』
と、これは本當に吾々に取つて有益なる教であつて、吾々は研究を努め
て怠らないやうにせなければならぬ。

一一 使ふ人、使はれる人

使ふ者の苦勞……人を上手に使ふ人……店工場……使はふさすれば失敗……小言や規則攻めでは……使所に糸屑……従業員優遇の設備……親しむ……温情主義の經營法……高率配當是非……英國でも……風ミ太陽の競技……公平論出 不平人……不平の價値……注意函……下情上達係り……思ひやり……親身の世話……新島讓氏の自傳……可愛ければこそ……使はれる者の心掛け……影での不平は禁物……中間で邪魔……鐘紡では……舉動を慎め……或鐵道會社が其の使用人に示した注意書き……カーネギーの金言……辛抱が肝心

人を使ふ者には、使はれるものよりも一倍の苦勞がある。人を使ふ者が、使ふ人を上手に働かせるの満足に働かせるのは、仕事の成否の

使ふ者の苦勞

人を上手に使ふ人

店工場

使はふさすれば失敗

分かるるところであつて、人を上手に使ふことの出来る人は、人の上に立つ事が出来る人である。と言つても店の支配人となつて、手代や丁稚を上手に使ふ人でも、それを工場の支配人にする、其の結果全く相反するところがある。これは店であると、事務所の中に居る幾人又は幾十人の店員をば、一目の下に見て支配することが出来るが、工場になると大勢の従業員を自分の目の前で働かせる譯に行かぬ。店の方は目の前で使ふのであるから、監督の方法も容易であるが、工場の方は目の届かぬ所に居るものを上手に働かせるのであるから、同じ人を使ふにしても、同一の方法では思ふ様に行かぬ。

工場の従業員を上手に使ふには、之を使ふと言ふ考では失敗する。どうしたらば従業員が満足して、自然に一生懸命に働らいてくれるだらう

小言や規則攻めでは

かと言ふ事を、常に心懸けて居らねばならぬ。目の前の者を嚴重に監督することは容易であるが、目の前に居ない工場の中の従業員を、自然に能く働いてくれるやうにする方法は、使ふ者にとつては大苦勞である。工場の従業員を使ふ支配人で、濫りに小言を言つたり、又は嚴重なる規則を設けて規則攻めにするものは、多くの場合失敗する。

便所に糸屑

私が始めて鐘淵紡績會社の兵庫工場を運轉した時に、工場に糸屑が餘り多く出るから、八釜ましく小言を言つたところ、二三日してから糸屑が非常に減つたので喜んで居つたら、間もなく衛生夫が便所を掃除に行つて、便所の中に澤山の糸屑が捨て、あると言ふ事を知らせに來て、始めて私は目に見えぬ所で働く多くの人には唯喧ましく小言を言つたり、嚴重な規則を以て攻め付けては、其の目的を達しないことを悟つて、爾來全く

従業員優遇の設備

工場經營の方針を改め、總て何事も遠廻しに、従業員を自然と其處へ向ける様仕向ける方法に全力を盡した。

それをするのに第一に必要なものは、従業員の心に満足がなければならぬと考へて、従業員を優遇することに大いに力を盡した。鐘淵紡績會社の従業員に對する優遇の設備及び方法は、一冊の書物に編纂してある位で、恐らく痒い所に届くと言ふ點に於ては、世界中如何なる工場も之に及ぶまいと言ふ自信を持つて居る。

更らに大勢の従業員を上手に使ふのには、従業員の補習教育が必要である。此點に於ても、私は鐘淵紡績會社に之を試み、それが爲め尠なからず費用を使つて居るが、其の結果は相互の爲め有利であること認めて居る。此の補習教育を行ふにも、又は種々なる會合を催すにも、従業員と

親しむこと

の間に親みを持つ心掛が必要である。従業員に教へるにも、成るべく工場
場の主任者又は主なる當局者が之に當り、外部より専門の教師を雇ふて
之に託することは、止むを得ぬ學科の外は之を避けるが良し。

温情主義の經營法

世間多くの人の中には、温情主義を深く實地に研究せずして非難する
ものがあるが、私は大正八年アメリカへ行つた時、アメリカの労働省が、
全国の工場主に向つて獎勵して居るのは、正に温情主義の經營法であつ
て、それが爲め労働省は、米國中の工場で職工に對する新たなる設備を爲
すものは一々寫眞に撮つて詳細に説明を附し、これを印刷し、幾萬部とな
く全國工場主及び世間に頒布するのを見た。又米國で嘗て高率配當に就
て非難が起つた時、労働省は直ちに全國工場中高率配當するものと低率
配當するものとの従業員の待遇を詳細に取調べ、高率配當をする會

高率配當是非

社は良い品物を安く供給して、其の従業員は却つて優遇を受けつゝある
事實を明細に記したる調査書を公表して世間の誤解を解いた。序ながら
私は吾が政府も内務省社會局の仕事の一つとして、かゝる仕事もしても
らいたいと思ふ。

英國でも

英國では一部の工場主には温情主義の實行者もあつたが、其の多數は
全く度外視して居つた。然るに近頃になつて英國に於ても職工優遇設備
を實行するの必要を認め、同國政府も盛んにこれを獎勵し、鐘淵紡績會社
の待遇設備に關する書物等は、英國領事館よりの申越しにより、これを
送附したやうな次第である。

温情主義の工場經營法を非難するものは、吾國に於ても次第に其聲を
潜めた。これは當然の事であつて、世の中の事は、何事でも温情を除いて

は、無事に治まるものでない。吾國では、何事も法律や規則で取締つて行けるもののやうに考へる人が少くないが、法律や規則は人を強制する一つの道具であつて、人をして心から喜んで服従せしむるには、冷たい人を強制する法律や規則の外に温かい何者かが其處になければならぬことを知らねばならぬ。

風と太陽の競技

西洋の昔話に、風と太陽との間に争が起つたところが、丁度一紳士の屋外に歩行して居るのを見て、風は自分の力で其の外套を吹飛ばさんと非常な勢ひで吹き荒み、以てそれを脱がせんとしたところ、風が力を加へれば加へるほど、その紳士は放さじものと益々外套を締めつけて身體に引付けた故、外套は却つて紳士の身體に固着することとなつた。處が、太陽は風のやうに力に依らず、徐ろに其温かき光輝を放つて紳士の身體を

「公平論出」不平人

温め始めたが、紳士は段々其の温味の爲め外套のみか上衣までも脱ぎ去つたので、風はこれを見て、遂に太陽の前に頭を下げた。と言ふ話があるが、人を使ふものは、此の昔話によつて、大なる教訓を得なければならぬ。また人を使ふ人は、使はれるものの中に常に不平のある事を知つて居らねばならぬ。此の不平を巧に、安全瓣を設けて逃がすやうにする事が、人を使ふものの最も手腕を要するところである。私が大切に所蔵して居る福澤先生の額に、「公平論出不平人」と書いてある。私は此額を見る度に、先生の卓識に感服して居る。一寸考へて見るに、世の中に不平を言ふことほど、煩さきものはない。それ故不平を言ふ人は常に遠けられる。不平を言ふ人必ずしも良い事ばかり言ふものではないが、吾々は不平の人より却つて公平の論を聞く事が多く、得意の地位にある人から却つ

不平の價値

て存外不公平の事を聞かざる事がある。

人を使ふものは、日々自分の仕事に急がしいからこゝて、兎角不平の人の言ふ事を聞かぬやうにする傾きがある。然しながら、不平を言ふ人の意見を能く聞いてやらねば、其人が不平の爲め働かぬ許りでなく其の不平を他へ傳染させて、全體の仕事の成績の上に不利を來たし、又時として工場経営上非常に有益なる意見を逸することがある。故に何程急がしい時でも、不平を言ひに來たものがあれば、何事を差し措いても充分にこれに耳を籍さねばならぬ。又其言ふところが大した悪い事ではなければ、許す限り本人の言ふ事を取り上げて満足させる事を怠つてはならぬ。

注意函

不平の安全瓣の一つとして、注意函のやうなものを各所に備付けて、一

下情上達係り

定の規定の下に注意書を出した者には、奨励金を與へる方法を設くるも一方法であり、従業員中に下情を上達する世話役の様なものを選ませて、大勢の不平や、希望や、意見等を取次がしむるも亦一方法である。又工場主任者などは、種々の會合を催して、なるべく従業員に親しく接する機会を多くすることは極めて必要である。

思ひやり

また人を使ふものは、使はれるものの身の上を常々考へてやらねばならぬ。家庭に於ても、主婦たるものは自分の娘が女中に行つた時の事を考へて、女中に對しても、他人の娘を預つて居ると言ふ事を忘れずに、親切に行儀作法から嫁入迄の世話を出來得る限りしてやらねばならぬ。店の主人や工場主等は、店員や従業員を他人の子供を預つて居ると思つて、家族同様に何處迄も親身の世話をせねばならぬ、かくすれば、自然

親身の世話

と使はれる者ご使ふものとの間に一種の情愛が出来て、仕事の成績も自然に良好となり、これが爲めに要する費用は損失とはならぬのである。故に人を使ふ仕事の資本主は、此理合を能く知つて、仕事の經營に當るものが、此の有利なる目的に費用を使ふ事について、誤つて苦情を言はぬやうせねばならぬ。

新島襄氏の自傳

人に使はれるものも、人を使ふものに對して相當の思遣りがなくてはならぬ。先頃京都同志社の創立者たる新島襄氏の自傳を讀んだ其中に新島氏が子供の時に、祖父さんに薰陶されて利益したといふ話があつた。『嘗て十二三歳の時、自分が母の言ふ事を聞かなかつた爲め、お祖父さんは怒つて、自分を土藏の中に放り込んだ。其時にはお祖父さんを非常に惡るい人のやうに思つて怨んだが、暫らくするとお祖父さんは自分を藏

可愛ければこそ

の中から連れ出して一室に伴ひ、憎んでは打たぬものなり笹の雪」可愛ければこそ折檻もするものである、と聞かされて、夢のさめた心地がした。』

使はれる者の心掛

斯様に祖父と孫との間柄でも、其の躰方が餘り嚴格に過ぎると、双方の間に假令一時でも感情上の誤解が起る、況んや多人數の従業員を使ふ場合に於ては、意外なる行違が起り易きものである故に、人を使ふ人は注意しなくてはならぬは勿論であるが、人に使はれるものも、使ふ人の心の中に立入つて能く考へ、時としては嚴格に過ぎるやうな處置を受け、却つて自分の爲めを思つて扱はれた場合もあり、又大勢に對する規律上止むを得ぬ事もあるから、新島氏の話を能く考へて、誤つて人を使ふ人の心を曲解し、反感を抱いて輕々しく一身の進退を決したり、故

なく之を怨まないやうにせねばならぬ。

大勢の従業員を使ふ所に於ては、自分の働が上の方へ認められぬ場合もある。故に従業員は、注意書なり、意見書なり、何等かの方法に依り、工場や會社の爲になると思ふ事は上の方に申出して、自分の働きを認められる様にせなければならぬ。之をせずして、たゞ上の方の人が眼が見えぬと言つて、内々不平ばかりをこぼしてはならぬ。ところが、此處に人を使ふもの、中にも、最上級にあるもの、最も注意せねばならぬ事がある。それは従業員中で自分の低いものが上の方に直接意見を申出でることは、中間の人はこれを好まぬものであることを知つて居ることである。人に使はれる者は、何にか言ひたい事があつても、中間の人がそれを遮つたり、又は直接最上級の人に出すとそれを含んで、後から當

影での不平は禁物

中間で邪魔

鐘紡では

られる事を恐れて、言ひたい事も言出し得ぬものである。また事實、中間の者が邪魔をしたり、何かにつけ生意氣な奴だと言ふ反感の情を洩らすものもある。依つて鐘淵紡績會社では、如何なる下級の職工でも、直接社長に書面を出し、又は面會を求めて意見を述べたり、陳情したりする事が公然許されて居り、事實さう行はれて居る。それは、私が此の下級の職工が私に申出でんとすることに對し、少しにてもこれを好まぬ風を示すとか、又は申出でた後これを含んで、何かに當るやうな事があれば、更に其事を申出でると、如何なる高級者でも此の一事を以て直に解雇する事を嚴重に定めて、一般に公知せしめて居るからである。猶本人希望の場合には、他の工場へ轉勤することも許してある。此點に於て、鐘淵紡績會社は下情上達を妨ぐる場合が少く、時としては私が餘り下級の

人の意見を採用し過ぎる爲め、何にかと私へ申出でる中には、此の特権を濫用するものも生ずると言ふ話を聞くことがあるが、私はその位にして始めて大工場は無事に納まるものと思つて居る。私が此位にして居つても、氣の弱いものは、兎角遠慮勝となるものであるから、私は人に使はれる者に向つては、遠慮なく上の方へ意見を陳述する勇氣を持つやうに忠告すると同時に、人を使ふ者は、人に使はれる者の此邊の心持も思ひやつて、進んで言ひたい事を言はせるやうに仕向ける總ての注意と方法を必要とする。

また人に使はれる者は、多くの人々に接する上に於て、其の舉動の如何によつて、自分の爲めのみならず、雇主の爲めにも大なる損得が起るから、其の舉動は大いに注意せねばならぬ。米國の或鐵道會社

舉動を慎め

或鐵道會社が其の
使用人に示した注
意書き

の重役が、客に接する心得を、其の會社の驛夫車掌等に示したものがあ
るが、獨り客商賣のみでなく、人に使はれるもの、爲め、有益なる参考
と思つて左に拔萃する。

『會社の使用人で、直接客に接する人は、萬事親切丁寧にするこゝが一
番大切であることを了解してもらひたい。今迄これを実行して居られ
た人に對して深く感謝の意を表する。また此點について餘り念頭に置
いて居なかつた人々は、今後次に示す各箇條を守つてもらひたい。

第一、他人に親切丁寧にするこゝは、一口に言へば、自分に他人が爲
さん事を望む所を、自分が他人に爲す言ふ事である。

第二、鐵道の如き入組みたる仕事に對して、世間で分らぬ事が甚だ多
く、故に局外の人々が尋ねる事が多いのは當り前であるから、尋ね

られた時は、出来るだけ親切丁寧に説明するやう心得べし。

第三、言葉は意思を表はす唯一の手段であるが、身の振舞も同様に大切である。故に親切に鄭重なる身の振舞は、其人の氣高かき印なるのみならず、汝の言葉に對して、其の目的に最も有効なる働きを爲さしむる事、恰かも器械に對する油の如きものと心得べし。

第四、眞に丁寧にするには、相手を選んではならぬ。會社の上役に對すると等しく、身分の低き他人にも柔かき言葉を與へ、且つ何時にても手を貸すことをせねばならぬ。

第五、親切丁寧にする事は、世間が求める權利である許りでなく、之に對し充分報酬が來ると思へ。

(イ) 自分にも、會社の代理人としても多くの同情者を拵へる事が出

來る。

(ロ) 自分の生活上にも、會社と御客との間にも無用の争を避くる事が出来る。

(ハ) 自身の會社に於ける地位を高める事となる。

(ニ) 他人に親切を爲したる事に依り、心に良き心持を感じる。

會社の使用人に對して公衆に接するものは、能く以上に示すところを味ひ、身の振舞を鄭重にする事は、自己の職務であり、特權であると思ふ事を望む。

今一つ私が人に使はれるものに注意して置きたい事は、人に使はれて居る間は、決して投機に手出しをせぬことである。カーネギーは毎朝起きて先づ新聞の定期相場欄を見るものは成功せぬものであると言つて、

カーネギーの金言

辛抱が肝心

投機を深く戒めて居るが、私は少なくとも、人に使はれて居るものが、投機に手出しをする事を深く戒しめる。それは投機に手を出すと、全く精力を集中する力を失ふからである。斯くて終には一身を持つて眞面目に働いて居りさへすれば十分出世する才能を持ちながら、其の機会を失ふ事となるから、投機は最も慎まねばならぬ。此外にも色々注意したい事があるが、大抵の事は誰れも知つて居ることであるから、唯人に使はれるものは辛抱が肝心と言ふにとめて置く。

一二 責任觀念

責任觀念と義務觀念……英國人の誇り……公私二様の義務……自己の職分に忠實なれ……或普選論者の告白……知識階級の責任……宗教改革の起るわけ……キリストの痛罵……富豪の責任……金持の自慢話……社會の恩を忘れるな……金持の忘恩思想の悪化……社會奉仕即自己保全……ワナメーカー氏曰く……富豪の盲腸化を戒む……金持の自衛の爲めにも……政治革新學校……最も大なる奉仕……カッドベリ1氏を學べ……新歸朝者の談片……日本素通りの理由……米國六代目の大統領……號外通信技師……社長代議士……株主各位に謹告……「お笑ひ被下べし」……ウエルリントンの部下……建國の大精神に鑑みて……

責任觀念は人間として持たねばならぬ義務觀念の一つである。故に何

責任觀念と義務觀念

英國人の誇り

れの國に於ても、之を教へて居る。英國などの小學校の教科書を見て私
が實に感心するのは、

「英國人の誇りは英國人が世界の領土内に太陽の没しないと云ふ所には
ない、英國人の誇りは英國人の義務觀念の強いところに在る」

と書いてあることである。また

「義務觀念を分ちて二つとする。一つは私の義務觀念であつて、一つ
は公の義務觀念である。私の義務觀念とは、自治精神此の自治の精神
を養ひ強める事にある。ロビンソン・クルソーが、獨り島の中に居た
やうな場合であつても、俯仰天地に恥ぢない行動を取らなければなら
ない」

と言ふことを教へて居る。

公私二様の義務

「公の義務觀念とは、大は一國の政治より、小は隣人に對してまで、
社會の一員として盡さねばならぬことを完全に遂行し、國家社會全體
の爲めに盡すことである。なほ此の觀念を他國人にまで及ぼせ」
と説いて居る。

私が本章に於て述べんとするところは、此の英國小學校教科書中にあ
る義務觀念中の、人間が自己の仕事の上には勿論、社會の一員として盡
さねばならぬ責任觀念に就てである。

吾々の第一に必要とするは、自己の職分に忠實なる責任觀念である。

自分の扱ひ又は製造して居る品物が、多くの人々の幸福に關係するもの
であると思へば、怠けたり又は悪い品物を供給することは出来ぬ。職分
に對する責任觀念は、獨り商工業に従事するもの、みに限らぬ。苟くも

自己の職分に忠實
なれ

或普選論者の告白

世の中で仕事をするものは、何人も此の觀念を持たねばならぬ。
 私は近頃或學者から『自分は普通選挙の必要を多年唱へ來つたものであるが、今それが近く行はるゝことゝなつては非常なる責任を感じる、是非其の結果を良好ならしめたい、それには國民に政治を能く理解せしむる爲め政治教育を施す必要がある、是れからは大いに之に盡力する』との告白を聞いて、非常に感心した。

知識階級の責任

世の中に對する知識階級の力は甚だ廣大なるものであつて、其の筆や口の力は、國民全體の心を左右し得るものである。何れの國の歴史を見ても、古い昔は、宗教と政治が同一であつて、其頃の知識階級なるものは、多くは宗教家であつた。而して其の當時の知識階級たる宗教家が、其の職分に忠實なる間は國家は常に安泰であつた。之に反し、國民の爲

宗教改革の起るわけ

めを思はねばならぬ宗教家が、次第に其の精神を失ひ其の職分に對する誠の觀念が乏くなつて、自分の宗派に對する一種の職業氣分が強くなる、却つて民を虐げるやうになつて、社會民心の動搖を起し、常に宗教改革となつて現はれて居る。吾國に於ても、奈良朝以來の歴史を見ると、此の事を明らかに知ることが出来る。日蓮上人の宗教改革の如き、最も世に知らるるものであるが、獨り日蓮上人のみでなく、法然上人でも、親鸞上人でも、皆其の當時の知識階級たる僧侶が、職分を誤まれるに對し一種の廓清運動を起したものである。

キリストが、立つて戰つた相手は、當時の知識階級たるパリサイの職業宗教家であつた。新約聖書の中のマタイ傳二十三章のところに、イエスが群衆と弟子達に説き教へたところを讀むと、如何にイエスが痛烈

キリストの痛罵

に彼等を攻撃したかが判る。イエスは群衆や弟子を戒めて、「彼等の言ふところは守りて行へ、されど其の所作には倣ふな、彼等は言ふのみにして行はぬなり」と教へて居る。イエスは彼等を罵つて「汝等は酒杯と皿の外を潔くす、されど、内は貪慾と放縱とに満ちて居る」と語つて居る。新約聖書の中のマタイ傳の一部は、イエスと職業宗教家との戦闘史である。

近世に至つて、宗教と政治とは全く分離し、又世の中は昔と違つて知識は一般に普及し、言論文章の力は益々偉大なる力を揮ふに至つた、随つて學者は勿論、總て言論に従事する知識階級の責任は、一層重大なるものがある。是れ、私が知識階級の社會民衆に對する責任に就て、第一に述べたる所以である。

富豪の責任

私は、次に世の富豪に向つて、其の責任の重大なるを説きたい。維新

前迄は、金持でも、宗教に歸依するごか、又は儒教の教養を受けぬものはなかつた。然るに維新以來、富豪は世と共に宗教を顧みぬものが多くなつた。同時に儒教も西洋文明の前に其力を失ふやうになつた。而して之に代るに、吾國の富豪の多くは自己の道徳心を培ふべき何者をも受入れなかつた。此等の人々は物質文明の知識は受入れた。併し、文明國に於ける富豪の有する義務觀念は多く之を顧みぬ。若し吾國富豪にして、少しにても富と共に一身の道徳心を進めんとする心だにあらば、今日は容易にこれを爲し得るのである。然るに吾國富豪の多くは、成るべく他人に接せぬやうにする。それなれば、書物を讀むかと言ふと、書物は讀まぬ。學者の講演會や、演說會にも、出席することを嫌ふ。斯くして吾國富豪の多くは、社會より全く離れんとして居るのである。吾々は、時とし

金持の自慢話

て、自分は誰れの厄介にもならず金に儲けたと言ふ自慢話を聞かせることがあるが、世の中で金を儲けた人で、世の中の厄介にならぬものは一人もない。土地を持つて儲けたものは、土地の周囲が繁榮になつた爲であつて、何人でも、之を認めぬものはないが、土地でなくとも、世の中で仕事をするもので、世の中の厄介にならぬものはない。金を儲けたものほど、餘計に多く世の中の厄介になつて居ると考へねばならぬ。世の中が進歩發達してこそ、商工業も發展するのであるから、如何なる仕事をして、社會の恩を感じねばならぬ。別して成功した者は、餘計に耐會に對し感謝の念を持たなければならぬ。然るに吾國に於ては、維新の變動が一方に於て町人や百姓等を解放して四民同等ならしめ、他方に於て國民の道德心を支配した宗教や儒教をして、其の光を失はしめた

社會の恩を忘れる
な

るが爲め、國民全體の道德心を弱くし、富豪も亦此の弊に陥るに至つたのである。

尤も、吾々は富豪の總てが義務觀念を缺いてゐると言ふのではない。吾國の富豪の中にも立派な精神を持つて居る人々もある。然しながら、私は吾國富豪が今日は從來の心掛けを改めねばならぬ時であると言ひたい。金持喧嘩せずとは、昔からの諺であるが、金持は此諺を往々にして義務も回避するに如かずといふ方に利用して居る。近來、世中の思想の風潮が悪くなつたと言ふ苦情は、金持の人々が常に言ふところであるが、先づ他を非難する前に、自らを省みねばならぬ。思想の悪くなつた原因は主として金持の心掛けの悪いところに存してゐる。金持の中に少數でも不心得のものがあれば、金持全體は其の責任を負擔せねばなら

金持の忘恩思想
の悪化

ぬ、金持の心掛け次第では、思想の悪化も之を防ぎ得たし又今後とても防ぎ得るのである。

私は望む、世の富豪なるものは、今日までの義務は何んでも逃げようとする心掛を一變して、社會公共の爲め進んで盡すと言ふことが、單に社會に對する義務のみでなく、自らの安全を保つ唯一の途であることを悟らねばならぬことである。彼の有名なる米國百貨店の創立者たるワナメーカー氏が、共和黨の大統領選舉に際し、同黨の財政委員になつた時、富豪に向つて、諸君は生命保險を附するではないか、然らば諸君は國家に向つて自己保全の爲め保險料を支拂はざるべからず、と説いて、多額の金を集め得たと言ふ話がある。吾國の富豪も社會に向つて其の保險料を支拂ふ覺悟がなければならぬ。

社會奉仕即自己保
全

ワナメーカー氏曰
く

富豪の盲腸化を戒
む

凡そ世の中に於て一般が必要とするものは、永く榮える。之に反し、世の中が必要を感じないものは、存在し得ない。かの人體に於ける盲腸の如き、神は必ず其の必要を認めて造つたものに相違ない。然しながら、醫者に言はせると何の働きもないものであつて、時としてそれが重い病氣の原因となることがある。それが爲め盲腸は外科醫の手にかかつて時々切り取られる。富豪なるものは、世の中に必要なものであることは少數の人々には能く分かつて居る。然しながら、其の必要である所以を明らかに社會民衆に示すことを怠つてはならぬ。普通選舉が行はれ、參政權が國民全體の手に歸した以上、國民の多數がそれを理解せざれば、合法的に富豪を苛めることは容易である。されば今日富豪に取つて最も必要なものは、民衆の教育である。民衆に政治經濟の知識を與ふるこ

こは、富豪に取りては最も必要なる自衛の途である。

頃日亞米利加の一事業家が百萬弗(吾が貳百萬圓)を寄附して、政治革新學校なるものを建設し、開校式を行ひ、前國務卿で政治學者たるエリユールト氏が聘せられた。大富豪が世の中に盡す仕事は種々あるが、國の政治を良くする爲め國民に政治教育を與ふことに盡力することは富豪自身に取りても、社會全體の爲にも、洵に有益なる事である。彼の有名なるブライス子爵が、エール大學に於ける講演中に、政治を良くすることに骨折ることは、社會奉仕の最大なるものである、と言つて居るのは至言である。彼の日本にもチヨコレートで知られ居る英國のカツドベリー會社の社長で、先頃死去したジョージ、カツドベリー氏は八十五歳であつたが、其の傳記を讀むと、自由黨の會計役を務め、其市の區會

金持の自衛の爲めにも政治革新學校
最も大なる奉仕

及市會議員をも勤め、尙其附近の選舉區より眞面目なる立派な代議士を送る爲め、自ら選舉費用を負擔せられたと言ふことが書いてある。

更に吾國富豪其他有力なる實業家の心得となるべきは、之に對しカツドベリー氏の常に語つたことである。「自分が此老年になつて、斯くの如く種々の公職に就き、公けの仕事に従事することは、一身に取り煩はしきことであり、又會社の仕事の上から言へば之が爲め、多少不利を來たすところもあると思ふが、自分がこれを爲すは、公けに對する義務として爲さねばならぬことであると思ふからである」

私は富豪の責任について、餘り多くを語つたが、他意はない。全く吾國に於ける富豪が、國民敬愛の的となつて、社會に於ける反感の空氣を和らげ、能く國內の平和が維持せられて、吾が國家の益々繁榮ならんこ

カツドベリー氏を
學べ

ことを望むが爲めに外ならない。

最後に一般國民が其の職分に忠實に、責任を重んずる觀念の必要に就て一言する。此頃私の知人が歐米を漫遊して歸朝しての話に、

新歸朝者の談片

「マルセイユから上陸して佛蘭西、獨逸、伊太利等を見物したが、何處へ行つても、接する人が神經過敏で、突慳貪で、甚だ不愉快であつたが、ドーバー海峡を渡つて英國に上陸した時は、春の日に花咲く野邊に出た様な、明るい、心持のよい感じがした。それは逢ふ人接する人の總てが、ニコくして、親切であり、叮嚀であつて、何んもなく温く、懐かしみがあつて、實に居心地がよかつた。同國では可なり長く、廣く、各所を巡覽したが、到るところ皆同様であつた。英國人は、低い地位の人も高い地位の人も、皆現在の職務に全力を盡し、上下共愉快

氣であつた。私は、英國ならば永住して見たいと思つた」

と言ふ事であつた。是れ英國國民が其の職分に忠實で、責任觀念に富んで己れを持つること高い爲め、他國人に不快の感と與へぬのである。

日本素通りの理山

大正十年、私が支那を視察して歸途同船した多くの西洋人に「日本へ御上陸ですか」と訊くと「否、日本へは上陸しませぬ」と答へる。「何故ですか」と問ふと「日本では物價が高い上に、赤帽でも、車夫でも、ホテルのボーイでも、ゴツくして反感氣分がある、中には規定の賃銀や報酬を與へても、ブツ／＼言つて不平顔をする、甚だ不愉快であるから上陸せず、ヴァンクーパー、シャトルに直行しようと思ふ」と語つた。此頃は餘程變つたやうであるが、一時でも外國人に不快の感と與へると、それが永久の損になる。然しながら、斯の如き社會的反感の空氣を生ぜ

米國六代目の大統領

しめたのは、獨り此等のの人々のみを咎められぬ。

米國六代目の大統領、ジョン・クインシー・アダムスは、誠に眞面目で、非常に厳格な、責任觀念の強い人であつた。或時、其の息子が父の抽出から書簡紙を出して手紙を書かんとした時、アダムスは息子に向つて、「それを使つてはならぬ、今お前が使はんとした便箋は、公用のものである、右の抽出に私用の紙があるから、それを使へ」と命じ、尙公用と私用とを混淆してはならぬ事を、懇々訓戒せられたと言ふ事である。又彼のリンコルン大統領が暗殺せられた時、一電信技師が、新聞の號外を見て非常に驚いたが、豈圖らんや其の新聞の號外の種となつた電信は、自分の手に依つて取扱はれたものであつたこのことで、仕事に熱心に精神を集中して居ると、かう言ふ風にまでなるのである。

號外電信技師

社長代議士

私は數年前より、吾國政界の腐敗甚しきを憂ひ、大正十二年遂に政治運動に一身を投じ、自ら代議士となるに及び、從來の如く自分の従事する會社の仕事に規則正しく勉強することが出来ぬやうになつた。そこで私は左の如き書面を株主に送つて、其の意向を問ひ、一方社長として會社の仕事を監督しつつ、政界革新の爲め、國民覺醒の政治運動に従事して居る。私が會社の社長として一方代議士となり政治運動をして居るのには、吾國に於ける商工業者が、國の政治に對し冷淡で、自ら進んで之に當る勇氣と義務觀念に乏しいのを改むる動機もならんかと考へる爲めである。然しながら、私は店の主人でなくして、會社の株主の一番頭に過ぎない故、責任上其の承認を求めたのである。

株主各位に謹告

私は株主各位の御意向を伺ひ度いと思ひまして、茲に此書面を差上げる次第

であります。それは皆様に於ても、既に御承知あらせらるることと思ひますが、私が過般來盡力して居ります國民覺醒運動の事に就てであります。私が多年専心當社の業務に従事し來りましたことに就ては、株主各位に於ても御了承下されますことと信じます。私の今日あるは、私か此會社に勤めたためであつて、此事に就ては株主各位には勿論、私の先輩に對し常に厚く感謝し居るところであります。私は此會社の仕事以外、自分の名譽や、權勢や、利益のためには、何事にも關係せぬことに固く決心して居ります。然して私は適當の時期に會社を退き、靜かに家庭に在つて餘生を送りたいと、以前より其用意を致して居りました。然るに大正七、八年頃より、私は吾國財政經濟の前途と國家の將來に就て、甚しく不安を感ずる様になりました。大日本實業組合聯合會の委員長として、間接に種々國家のため盡力し、或時は當路の大臣に陳情し、或時は海外派遣の全權委員にまで進言しましたこともありますが、何れも顧みられざるのみならず、私共の書面や電信を受取りたることさへ回答を得ませぬ様な始末であります。爾來世の中の變遷を見ますると、私は吾國民就中實業家が、一日も早く

覺醒して、今日吾國の國民經濟を無視せる此不經濟なる政治、吾國の社會道德を脅かしたつゝある此不正なる政治を、革新するに非ざれば、吾國は精神的に壊敗するのみならず、次第に經濟的に行詰り、結局は國民の一部に生活困難を來し、思想は益々惡化して終には社會的動亂の動機を誘發せずと、深く憂ひまして、本年四月、同志と共に大阪に於て實業同志會なるものを組織し、私は其會長たることを承諾しました。此實業同志會の目的は二つあります。其一は、絶えず印刷物活動寫眞等に依り、一般國民に政治經濟に關する理解を與へることであります。此國民覺醒運動は、歐洲大戰中より英米實業家が、各協同一致して何れも之を實行し居るところで、國民思想の善導を、富豪や實業家が自ら之に任せずして、政府にのみ依頼して居るは、吾日本のみであります。私は、大正八年米國に於ける勞働會議へ、吾國雇主側を代表して參りました時、其必要を痛感して歸朝し、各方面の有力者に話しましたが、賛成はしても、熱心に之に協力せんとする人は有りませず、荏苒日を送りましたが、近來に至り、吾國家の現状を見るに忍びず、同志と共に實業同志會を起し、微力ながら、自ら先づ起

つて此勞を執らんと覺悟しました。今一つは、國民思想と云ひ、國民經濟と云ひ、第一に今日の政界の腐敗を廓清するにあらざれば、之を外にしては如何なる盡力も徒勞に歸するは明かなるを以て、好むことには非るも、團結の力に依り、今日の政黨政派を超越せる吾々同志の代議士を、一人にても多く議會に送り、憲法政治下の公民たる吾々國民が、久しく國の政治に盡すべき義務あることを忘却し、之を怠り來つた點に付き、吾々が先づ自ら第一に覺醒の實を示すことに盡力せんと決心しました。斯の如き事情の下に、私が此運動を起すに至りましたことに就て、株主各位へ、私の其茲に至れる事情を申上げ、各位の御意向を伺ひたいと思ひますことは、私は此運動のため、從來の如く一年三百六十五日、日曜日を除き日々或一定の時間會社へ出勤することは、事實不可能となりました。殊に私が他に向つて議會に出づることを勸めて、自ら之を辭することは出来ませぬ故、自然同志の希望に従ひ、自ら立つて代議士候補者たることとなると思ひます。其場合に於て、夫れ以外、私は當社の社長として、私の出来る丈の全能力を捧げ、會社の業務を統轄することは致します積りではありますが、株主

各位が之を許さるゝや否や、國家のため國民共通の利益のため盡すことなれば、株主各位は、私が從來の如く支配人専務取締役たりし時代と同様に、社長として日々會社に出勤せずとも、業務を統轄さへすれば之を御承認下さるゝや否や、私が株主各位の御意向を伺ひたいのは此點であります。恰も當期は私の改選期であります故、私が夙に此事を思ひながら、之を伺ふことを此機會まで延ばしました次第であります。世間では、私が一方會社の社長として、同時に實業同志會々長たることを以て、二兎を追ふものと申す人も有るとのことでありますが、夫れは政治を一の職業と誤解し、國の政治を善くすることに骨折することは公民の義務であることを思はぬ人の言ふところでありませぬ。又中には私が野心が有つて此運動を起したかの様に云ふ人も有る様ですが、私は會社の仕事の上でも、明治二十七年月給三十七圓五十錢で當社に雇はれました以來、今日社長に就任するまで、常に興味と、理想と、忠實なる觀念とを以て従事し、如何なる時に於ても、地位の向上せんことや、報酬の多からんことを目的として働いたことはありません。今日私は社長として多くの報酬を得て居りますが、私は此地位、

此報酬を得んがために努力したので無いことは、株主各位に於かせられても、私の心事を御認め下さること、信じます。私が今日國民覺醒運動を起したのは、犠牲的に着手したもので、之に依て名譽や權勢を得んとするがためでは有りませぬ。私は理想を行ひ能はざる大臣の地位よりは、假令小天地たりとも、理想を行ひ得るホテルのボーイ頭の地位の方が、遙かに尊ぶべきものと考へて居ります。故に自己の野心より之を爲すものに非ずして、吾帝國臣民たるもの、義務を盡すに過ぎませぬ。依て私が此會社の主人なれば、私は何の躊躇も致しませぬが、私は株主各位の一雇人たるに過ぎませぬ故、皆様の御意向次第に依りて、私の進退を決したいと存じます。就ては私が當社社長の任期を繼續することを不可とせらるゝ方々には、同封致しました返信用紙に、「認」字の方を抹消して御送り願ひます。又繼續するも差支なしと御認めになります方々は、「否」字の方を抹消して御送り願ひます。自然御返事の無き向は、御異議なく繼續を御承認下されたものと見做して決定を致します。猶詳細のことは、總會の席上に於て、他の報告と共に申上げる積りでありますが、毎度御出席になりませぬ方

が澤山御座ります故、茲に謹で此事を書面にて申上げ、豫め各位の御認否を伺ふ次第であります。

大正十二年十二月二十三日

鐘淵紡績株式會社
社長 武藤山治

株主各位

「お笑い被下べし」

吾國では古來武士は責任觀念が最も強く、幾多の美談が残つて居る。昔の士の借用證書の中に、若し期限に返済を怠るならば、登城の砌途上に於て御笑ひ下さるべし、と認めたものである。

英國人は最も職分を重んずる國民で、其の責任觀念は、吾々の想像し得ぬ強いものがある。嘗てウオーターローの戦争の時であるが、ウエルリントンは、或歩兵の陣地を巡視し、自國軍の兵力弱くして、佛國騎兵